MITSUBISHI

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

三菱ホームシアタープロジェクター

形名

LVP-HC9000D
LVP-HC9000DW

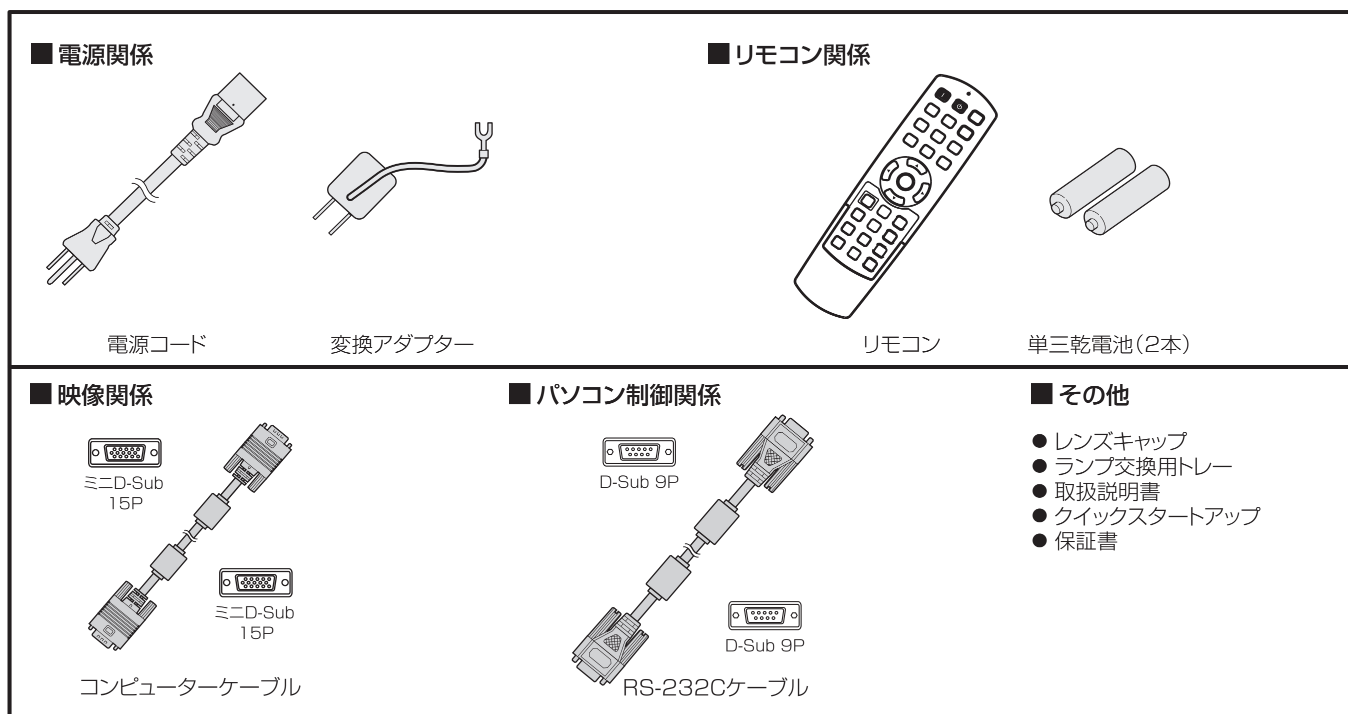
取扱説明書



このたびは三菱ホームシアタープロジェクターをお買上げいただきありがとうございました。
ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要なときお読みください。
保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめの上、お買上げの販売店からお受け取りください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

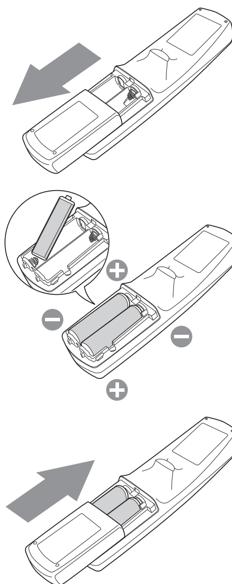
付属品を確認する・リモコンに乾電池を入れる

付属品を確認する（このプロジェクターには次の付属品があります。そろっているかどうか確認してください。）



● 付属の電源コード・変換アダプターは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。
● 天吊り時など、本機を高い位置に設置する場合は、落下の危険があるので、レンズキャップを使用しないでください。

リモコンに乾電池を入れる



1 リモコン裏面のフタをはずす

2 乾電池の（＋）、（－）をよく確かめて、（－）側から正しく入れる

● 乾電池を（+）側から入れると、（−）側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れ、ショートして発熱する恐れがあります。

3 裏面のフタを付ける

● 乾電池は、単三乾電池（R6）を 2 本お使いください。
● リモコンを使用できる距離が短くなってきたら、2 本とも新しい乾電池に交換してください。

⚠注意

● 電池は、7 ページに記載している「乾電池の取り扱いについて」を良く読んで、正しくお使いください。使用を誤ると液もれや発熱、破裂により、火災やけが、周囲の汚損の原因となることがあります（電池に表示されている注意事項もお読みください）。
● このプロジェクターはプラグ接続機器です。機器の近くにコンセントがあり、かつそのコンセントには、容易にアクセスできなければなりません。
● 本機には付属の電源コードをご使用ください。付属以外の電源コードを使用すると、ラジオやテレビの放送電波障害の原因となることがあります。
● J55022 クラス B 装置の規制範囲内に干渉を抑えるため、付属のコンピューターケーブルと RS-232C ケーブルをご使用ください。
● 本機は必ず接地してください。

もくじ

商標および著作権について

- “SXRD”およびそのロゴはソニー株式会社の商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または、登録商標です。
- その他、本書に記載のメーカー名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

■図記号の意味は次のとおりです。

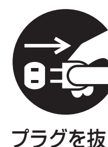
絶対に行わないでください	絶対に分解・修理はしないでください	絶対に触れないでください
絶対に水にぬらさないでください	絶対にぬれた手で触れないでください	絶対に水場では使用しないでください
手をはさまないよう、注意してください	必ず指示に従い、行ってください	必ず電源プラグをコンセントから抜いてください

⚠ 警告

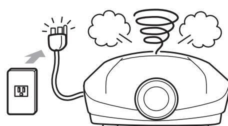
故障したまま使用しない

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く !!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。


プラグを抜く

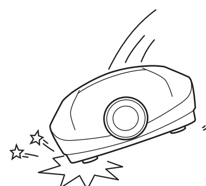
煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く !!




プラグを抜く

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、販売店に修理をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない

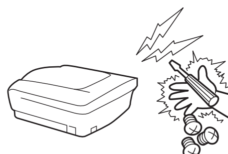



使用禁止

火災や感電の原因となります。

次のようなことはしない

キャビネットをはずしたり、改造しない

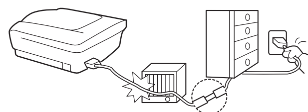



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

電源コードを傷つけない

- 重いものをのせない
- 引っ張らない
- ねじらない
- 無理に曲げない
- 加熱しない
- 加工しない
- じゅうたんなどの下にひかない




禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

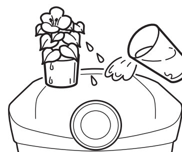
内部に異物を入れない




禁止

金属類や燃えやすいものなどが入ると火災や感電の原因となります。

花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない




禁止

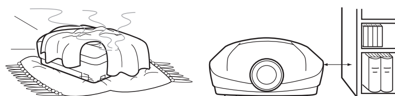
内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

⚠警告

次のようなことはしない（つづき）

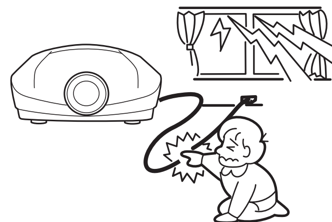
吸気口、排気口をふさがない

- 風通しの悪い狭い場所に置かない（壁から 50cm 以上離す）
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない
- 排気口付近に燃えやすい物を置かない



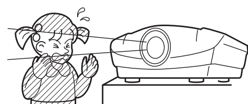

吸気口や排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

雷が鳴り出したら電源プラグには触れない




感電の原因となります。

レンズをのぞかない




光源ランプの点灯中は、レンズをのぞかないでください。強い光によって視力障害などのけがの原因となります。

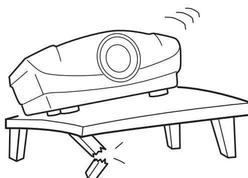
可燃性の溶剤（ベンジンやシンナーなど）やスプレーを近くで使用しない




ランプを点灯すると製品内部は非常に高温になるため、引火し、火災や故障の原因となることがあります。

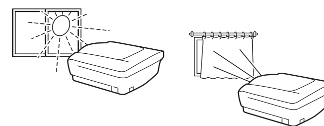
次のような場所に置かない

不安定な場所には置かない



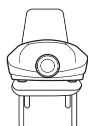

（特に上下逆さまに置いた状態で）ぐらついた台の上や、傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。

直射日光の当たる場所に置かない
レンズを太陽に向けたり、レンズの直前に物を置かない



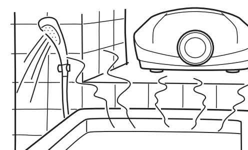

火災や故障の原因となります。

ソファー、椅子などの上に置かない




吸気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

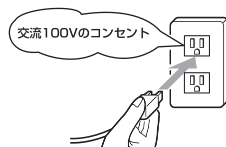
風呂場では使わない




火災や感電の原因となります。

その他

正しい電源電圧で使う





交流 100V 以外の電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。
また、必ず漏電ブレーカーを備えたコンセントから本機に電源を供給してください。

使用した直後、光源ランプの交換はしない

使用した直後、光源ランプは高温になっていますので、交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。



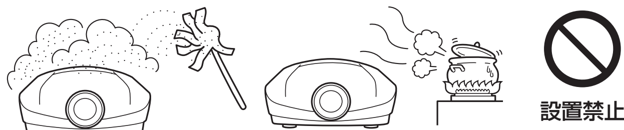
安全のために必ずお守りください（つづき）

⚠注意

次のような場所には置かない

設置時は、次のような場所には置かない

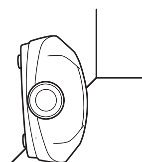
- 押し入れや本棚など、風通しの悪い場所
- 閉めきった自動車内など、高温になるところ
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所
- 屋外または空調設備のない場所
- 温泉地など、硫化水素などのガスが発生するところ
- 海岸近くなど、塩分の多いところ
- 熱器具や加湿器の近く
- 直射日光の当たる場所
- 火災報知器の近く
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 振動や衝撃が加わる場所



設置禁止

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶けるなどにより、火災や感電、故障、変形の原因になることがあります。

立てた状態で置かない

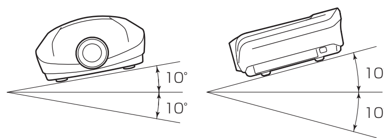




禁止

倒れて、けがや故障の原因となります。

傾けた状態で動作させない

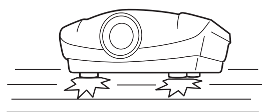




禁止

傾けた状態で動作させるとランプの故障や破裂の原因となります。左右方向に対して± 10 °、前後方向に対して ± 10 °を 傾けた状態で動作させないでください。また、傾けた状態で設置する場合、すべり落ちることがあるので、台などに固定して使用してください。

ワックスのかかった床に直接置かない

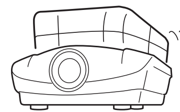




設置禁止

床上のワックス、洗剤、溶剤により、床材とプロジェクター底面脚部分の密着性が上がり、床材のはがれ、着色の原因になります。

重いものを置かない、踏み台にしない



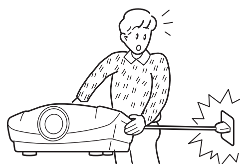


禁止

本体がこわれることがあります。また、バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源コード・プラグについて

接続したまま移動させない





禁止

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認してから移動させてください。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する

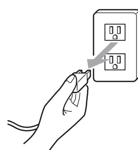




ほこりを取る

ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。
1 年に 1 回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

電源プラグを持って抜く

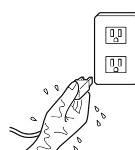




プラグを持つ

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない





ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

⚠注意

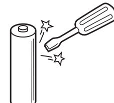
乾電池の取り扱いについて

新しい乾電池と古い乾電池や、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。




禁止

分解したり、ショートさせたり、火の中に投入しない。



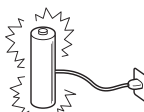

禁止

プラス（+）とマイナス（−）の向きを正しく入れる。




正しく入れる

乾電池を充電しない。
充電式の電池は使用しない。




禁止

- 乾電池は、（−）側から入れてください。乾電池を（+）側から入れると、（−）側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れて、ショートして発熱する恐れがあります。
- 使いきった乾電池は、すぐに取り出してください。
- 乾電池の溶液が皮膚や衣服に付着したときは、きれいな水で洗い流してください。また、眼に入ったときは、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 使用済みの電池は、地域の破棄ルールに従って破棄してください。
- 電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。万一、飲み込んだりした場合はすぐに医師に相談してください。

その他

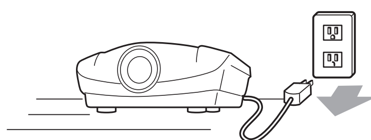
1 年に一度は内部の掃除を依頼する




内部掃除

販売店にご依頼ください。ほこり、油煙、けむり等により内部に汚れが付着したまま長い間掃除をしないと、火災や故障および、光学部品の汚れによる輝度劣化の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。内部掃除費用については、販売店にご相談ください。

ご使用が終わったときは、電源プラグをコンセントから抜いておく




プラグを抜く

電源ボタンで電源を切り、光源ランプを消灯したスタンバイ（待機状態）にします。**約 2 分間**待ったあと、主電源スイッチを切り、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
スタンバイにして約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために吸、排気ファンが回っているからです。

製品使用中は排気口をのぞき込まない

排気口から温風、ゴミなどが吹き出すため、目をいためることがあります。


禁止

レンズシフト動作中はレンズ開口部に手を入れない

手（指）がはさまれ、けがの原因となることがあります。

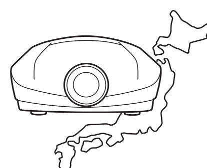

手はさみ注意

結露した状態で使用しない

結露した状態で使用すると、故障やその他の不具合が発生する原因となることがあります。


禁止

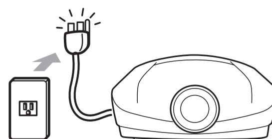
このプロジェクターは日本国内専用です

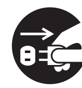



日本専用

電源電圧の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
This projector is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う




プラグを抜く

安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

排気口、底板は熱くなりますので触れないこと

やけどや他の機器への損害を与える原因となりますので、さわったり、排気口の近くに他の機器を設置したりしないでください。また、熱に弱い机の上などに置かないでください。


接触禁止

海抜 1500m 以上での使用は避ける

海抜 1500m 以上での使用は、製品の寿命に影響するおそれがあります。


注意

吸気口、排気口に指などを入れない

けがなどのおそれがありますので、吸気口、排気口に指などを入れないでください。

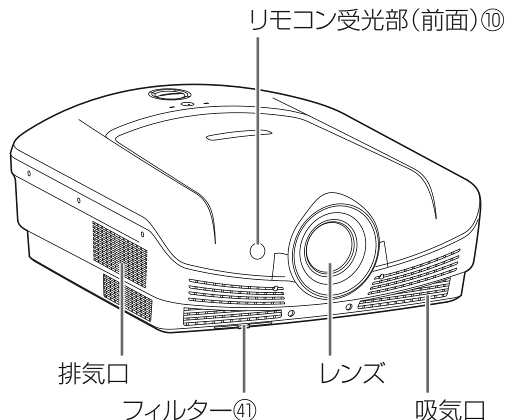

禁止

各部のなまえ

本体のなまえ（○は参照ページ）

本体

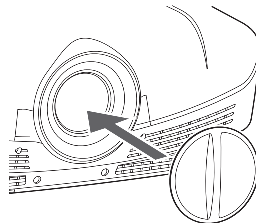
リモコン受光部（前面）⑩



排気口　レンズ

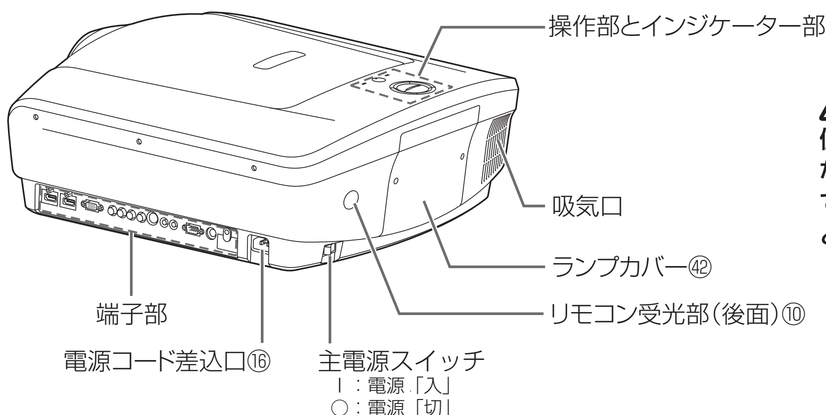
フィルター㊶　吸気口

レンズキャップの取り付けかた



付属のレンズキャップを取り付けるときは、プロジェクターのレンズ部に押し込んでください。
（取り外すときは、逆方向に引き出してください。）

操作部とインジケーター部



吸気口

ランプカバー㊷

リモコン受光部（後面）⑩

端子部

電源コード差込口⑯

主電源スイッチ
I：電源「入」
○：電源「切」

⚠注意

使用した直後、光源ランプは高温になっていますので交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。

操作部とインジケーター部

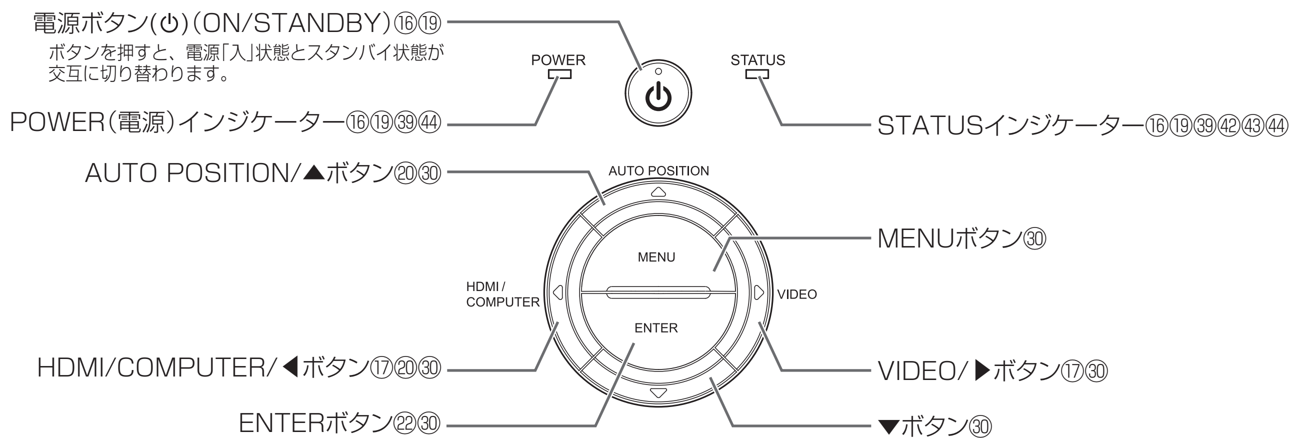
電源ボタン(⏻)(ON/STANDBY)⑯⑲
ボタンを押すと、電源「入」状態とスタンバイ状態が交互に切り替わります。

POWER（電源）インジケーター⑯⑲㊴㊹

STATUSインジケーター⑯⑲㊴㊷㊸㊹

AUTO POSITION/▲ボタン⑳㉚

MENUボタン㉚



HDMI/COMPUTER/◀ボタン⑰⑳㉚

VIDEO/▶ボタン⑰㉚

ENTERボタン㉒㉚

▼ボタン㉚

端子部

COMPUTER IN 端子⑲

HDMI IN-2 端子⑮

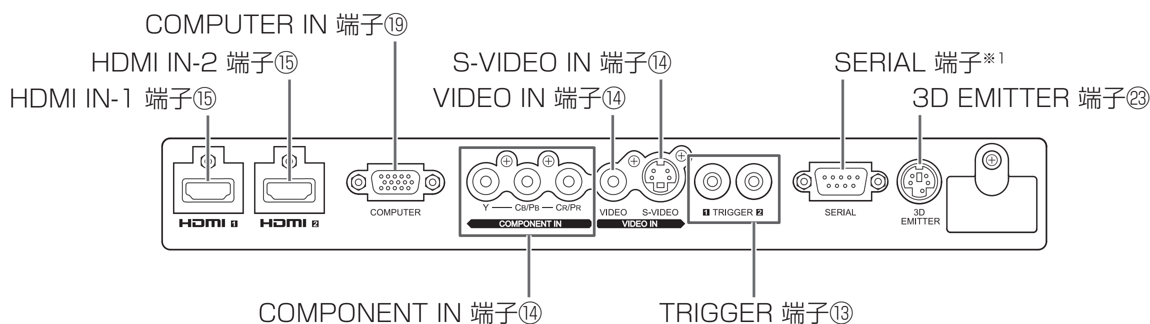
HDMI IN-1 端子⑮

S-VIDEO IN 端子⑭

VIDEO IN 端子⑭

SERIAL 端子※1

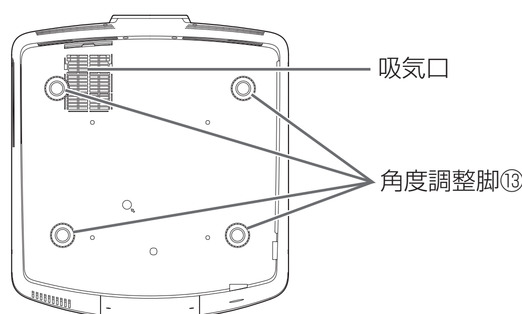
3D EMITTER 端子㉓



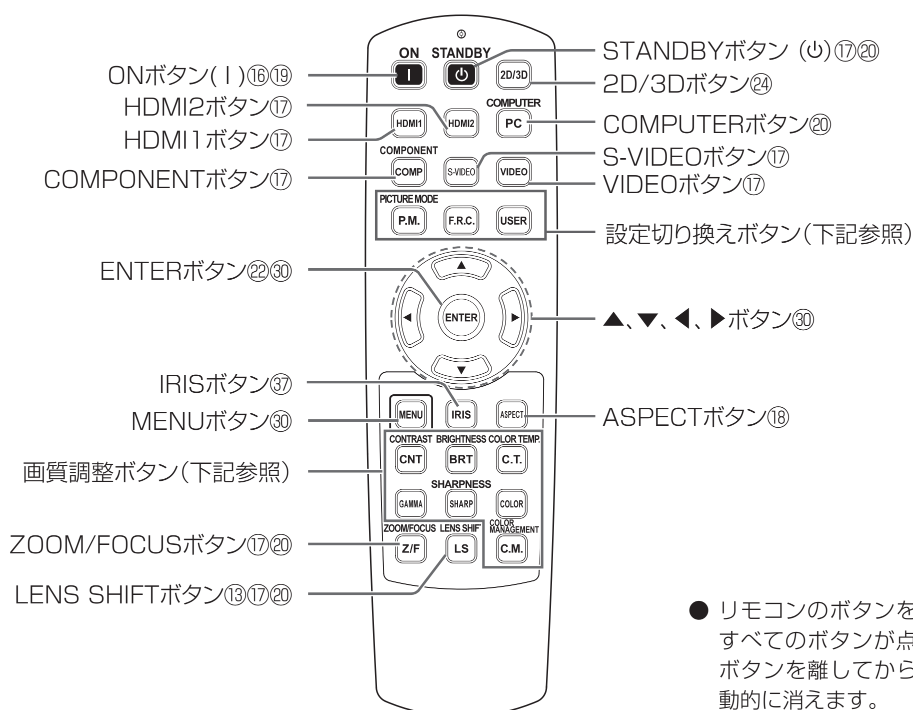
COMPONENT IN 端子⑭　TRIGGER 端子⑬

※1：サービスマンの調整用端子です。

底面部



リモコンのなまえ（◯は参照ページ）



● リモコンのボタンを押すと、リモコン上のすべてのボタンが点灯します。リモコンのボタンを離してから、しばらくたつと、自動的に消えます。

画質調整ボタンについて

リモコンの画質調整ボタンを使えば、簡単に画質調整が行えます。各ボタンを押すと、画質調整用のダイアログが画面に表示されますので、▶、◀ボタンを押して調整してください。

● 画質調整は、画質 1 または画質 2 メニューでも調整できます。（メニュー設定については 30 ページ参照）
( ) 内は、メニュー画面上での表示です。

CONTRAST（コントラスト）……画像のメリハリを調整します。▶ボタンを押すごとに映像が明るくメリハリが出ます。◀ボタンを押すごとに映像が暗くしっとりとします。
BRIGHTNESS（明るさ）……画像の明るさを調整します。▶ボタンを押すごとに映像が明るくなります。◀ボタンを押すごとに映像が暗くなります。
COLOR TEMP.（色温度）……あらかじめ設定された色温度の中から選択します。ボタンを押すごとに、設定が切りかわります。
GAMMA（ガンマ補正）……あらかじめ設定されたガンマモードの中から選択します。ボタンを押すごとに、設定が切りかわります。
SHARPNESS（シャープネス）……画像のシャープネスを調整します。▶ボタンを押すごとに画像がくっきりします。◀ボタンを押すごとに画像がソフトになります。
COLOR（色の濃さ）……画像の色の濃さを調整します。▶ボタンを押すごとに色が濃くなります。◀ボタンを押すごとに色が薄くなります。
COLOR MANAGEMENT(カラーマネージメント)……あらかじめ設定されたカラーマネージメントの中から選択します。ボタンを押すごとに、設定が切りかわります。

設定切り換えボタンについて

リモコンの設定切り換えボタンを使えば、簡単にあらかじめ設定されたモードを選択できます。

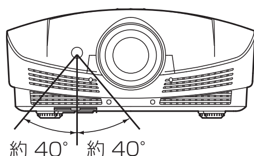
PICTURE MODE(画質モード)……ボタンを押すごとに、画質モードが切り換わります。
USER(ユーザー)……ボタンを押すごとに、画質モードで設定した「ユーザー」が切り換わります。
F.R.C.(フレームレートコンバージョン)……ボタンを押すごとに、フレームレートが切り換わります。

リモコンの使いかた

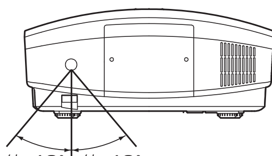
操作範囲

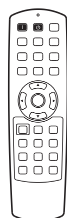
距離

本体前面

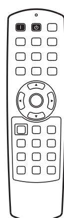


本体後面

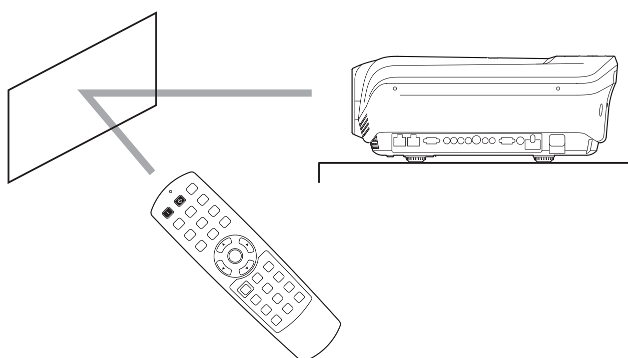




本体のリモコン受光部（前面または後面）に向け、正面で約10m以内のところから操作します。



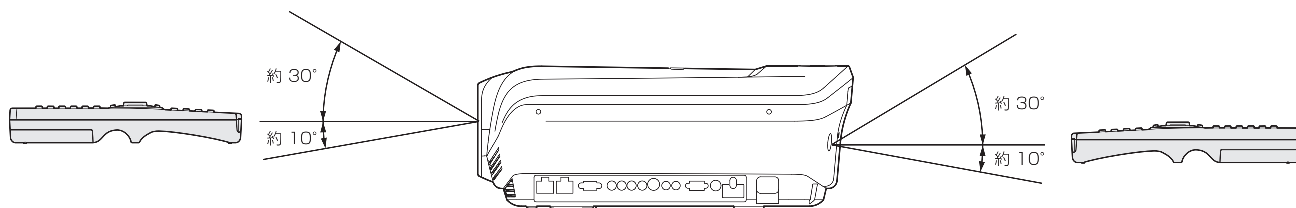
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などが直接当たらないようにしてください。
- リモコン受光部と蛍光灯は 2m 以上離してください。リモコンが誤動作することがあります。
- インバーター方式の蛍光灯が近くにある場合、リモコンが効きにくくなることがあります。
- リモコンと本体を近づけすぎると、リモコンが効きにくくなることがあります。
- 3D 映像をご覧の場合、リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 正しく動作しない場合は、設定メニューの「リモート受光部」を「前」または「後」に切り換えてください。



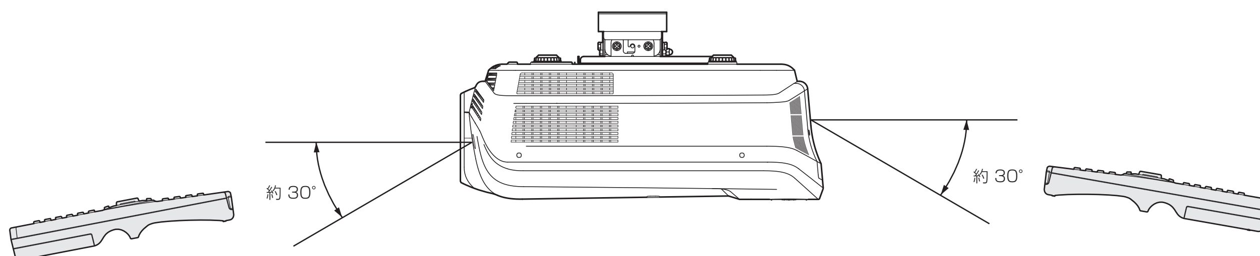
- スクリーンに向けて操作する場合、リモコンからスクリーンを通して本機までの合わせた距離が約 5m 以内にします。ただし、スクリーンによって操作可能範囲は異なります。

角度

上下方向（床置き時）



上下方向（天吊り時）



設置する

スクリーンの設置

スクリーンはプロジェクターに対して垂直になるように設置してください。垂直に設置できない場合は、プロジェクターの投写角度を調整してください（13 ページ参照）。

- プロジェクターのレンズがスクリーンの中心にくるように設置してください。
- スクリーンを直射日光や照明の光のあたる場所に設置しないでください。スクリーンに直接あたる光で画面が白っぽくなり、投写映像が見にくくなります。

「スクリーンサイズ」の設定について

スクリーンメニューの「画角」を、ご使用のスクリーンサイズに合わせることにより、映像の表示エリアがスクリーンからはみださないように設定できます。スクリーンサイズがスタンダードの場合は、「全画面」に設定します。

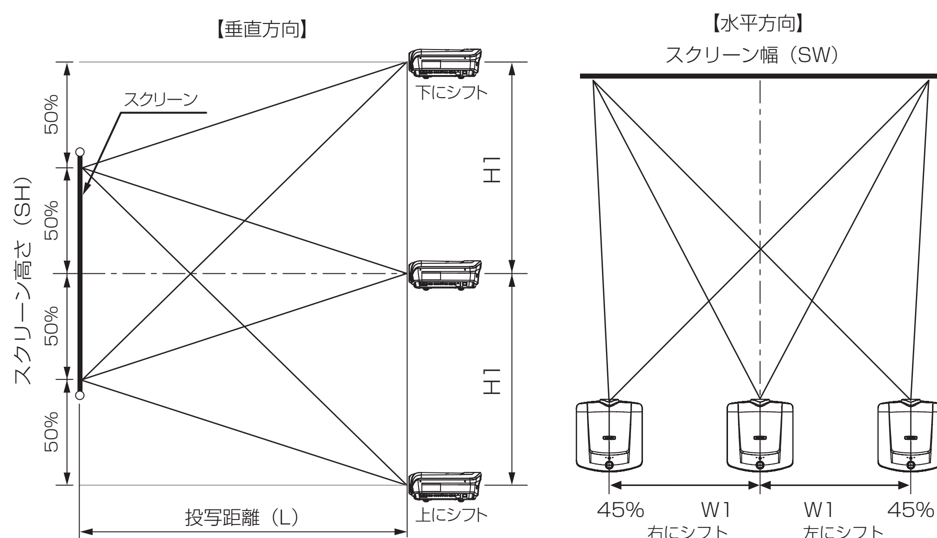
画角を「全画面」に設定した場合

- 4:3 サイズの映像を画面いっぱいに写します。
- ビスタサイズの映像は左右が小さくなって写ります。
- スクリーンメニューの「画角」を「アナモフィック 1」に設定しているときに、480i/p、576i/p、720p または 1080i/p の信号が入力された場合、字幕部分が表示されなくなります。字幕を表示したい場合は、「画角」を「全画面」に設定し、スクリーンメニューの「水平位置」と「垂直位置」を使って画像の位置を調整してください。

画面サイズと投写距離

下記の表を参考にスクリーンサイズと投写距離を決めてください。

- 設置する場所については、あらかじめ４～７ページの「安全のために必ずお守りください」をお読みください。
- 表の中の数値は、実際と数 % の誤差が生じることがあります。レンズシフトの縦と横の値は、出荷時のデフォルトの位置からの距離です。



■レンズシフト相関表

レンズシフト上下	100%	80%	60%	40%	20%	0%
レンズシフト左右	0%	15.3%	26%	34%	40%	45%

※：上下、左右を同時に最大にすることはできません。

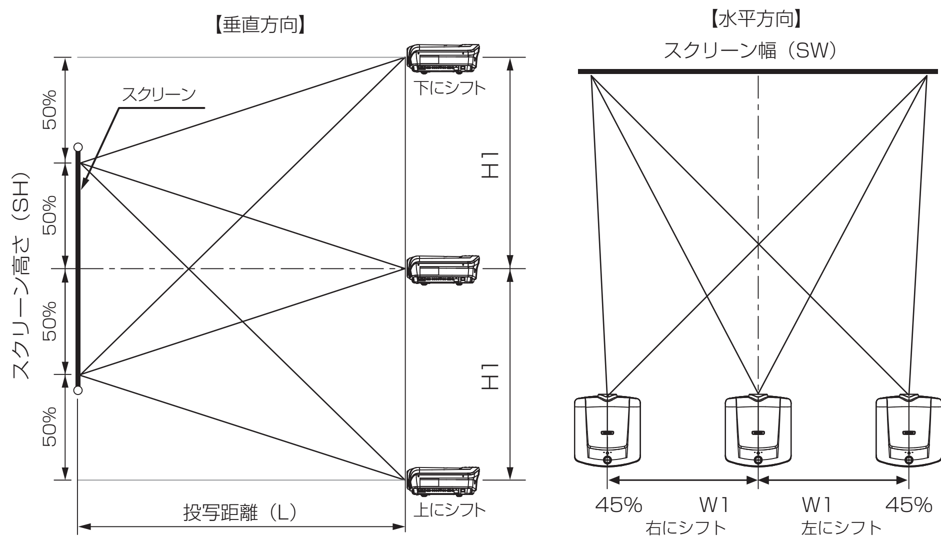
画角が全画面の場合

スクリーンサイズ（16：9）			投写距離 L		レンズ可動範囲	
（形）	幅 SW（cm）	高さ SH（cm）	最短（m）	最長（m）	W1（cm）	H1（cm）
50	111	62	1.7	3.1	50	62
60	133	75	2.0	3.7	60	75
70	155	87	2.4	4.4	70	87
80	177	100	2.7	5.0	80	100
90	199	112	3.1	5.6	90	112
100	221	125	3.4	6.3	100	125
110	244	137	3.8	6.9	110	137
120	266	149	4.1	7.5	120	149
150	332	187	5.2	9.4	149	187
200	443	249	7.0	12.6	199	249

- スクリーンメニューの画角の設定に応じて、投写距離が変わります。上の表は「全画面」の場合です。

設置する（つづき）

画面サイズ投写距離（つづき）



■レンズシフト相関表

レンズシフト上下	100%	80%	60%	40%	20%	0%
レンズシフト左右	0%	15.3%	26%	34%	40%	45%

※：上下、左右を同時に最大にすることはできません。

スクリーンサイズが４：３の場合

スクリーンサイズが４：３の場合、スクリーンと映像の寸法の関係は下記のようになります。

スクリーンサイズ（4：3）			映像サイズ（16：9）				投写距離 L		レンズ可動範囲	
(形)	幅 SW (cm)	高さ SH (cm)	(形)	幅 W (cm)	高さ H (cm)	B (cm)	最短 (m)	最長 (m)	W1 (cm)	H1 (cm)
60	122	91	55	122	69	11	1.9	3.4	55	69
70	142	107	64	142	80	13	2.2	4.0	64	80
80	163	122	73	163	91	15	2.5	4.6	73	91
90	183	137	83	183	103	17	2.8	5.2	82	103
100	203	152	92	203	114	19	3.2	5.7	91	114
110	224	168	101	224	126	21	3.5	6.3	101	126
120	244	183	110	244	137	23	3.8	6.9	110	137
150	305	229	138	305	171	29	4.8	8.7	137	171
200	406	305	184	406	229	38	6.4	11.6	183	229

● スクリーンメニューの画角の設定に応じて投写距離が変わります。上の表は「全画面」の場合です。

スクリーンサイズがシネマスコープサイズ（2.35：1）の場合

スクリーンサイズ（2.35:1）				映像サイズ（16:9）			投写距離 L		レンズ可動範囲	
(形)	幅 SW (cm)	高さ SH (cm)	B' (cm)	(形)	幅 W (cm)	高さ H (cm)	最短 (m)	最長 (m)	W1 (cm)	H1 (cm)
100	234	99	16	106	234	131	3.6	6.6	105	131
110	257	109	18	116	257	145	4.0	7.3	116	145
120	281	119	19	127	281	158	4.4	8.0	126	158
130	304	129	21	137	304	171	4.8	8.6	137	171
140	327	139	22	148	327	184	5.1	9.3	147	184
150	351	149	24	158	351	197	5.5	10.0	158	197
160	374	159	26	169	374	210	5.9	10.6	168	210
170	397	169	27	180	379	224	6.2	11.3	179	224
180	421	179	29	190	421	237	6.6	12.0	189	237
190	444	189	31	201	444	250	7.0	12.6	200	250
200	468	199	32	211	468	263	7.4	13.3	210	263

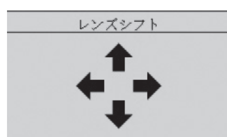
設置の調整

投写した映像の位置を調整する

投写した映像がスクリーンからはみだすときは、設置位置を調整するか、レンズシフトでレンズ位置を調整してください。

1 LENS SHIFT ボタンを押す

- 画面中央にレンズシフト表示が表示されます。



2 ▲、▼、▶、◀ボタンを押してレンズ位置を調整する

- ▲ボタンを押すと映像が上に移動します。
- ▼ボタンを押すと映像が下に移動します。
- ◀ボタンを押すと映像が左に移動します。
- ▶ボタンを押すと映像が右に移動します。

- 無信号時にレンズシフト表示を表示させると、画面全体にクロスハッチが表示されます。
- レンズシフト動作中はレンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
- 上下方向のレンズ移動量が大きい場合は、まれに色ずれが現れる場合があります。
- レンズシフト動作中は画面がちらつくことがあります。

画面の傾きやひずみを調整する

スクリーンに角度がついていて画面が台形にひずんでいるときは、以下のようにして投写角度を調整してください。

1 本体を投写させたい角度まで持ち上げる

- 傾き角を前後方向に対して 10° 以内に設置してください。

2 角度調整脚を左右に回して調整する

角度調整脚を伸ばした状態ではプロジェクターを運搬しないでください。伸ばした状態で運搬すると、調整脚が破損する恐れがあります。

スクリーン上の映像に縞模様が見えるときは

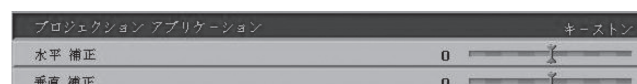
スクリーンとの干渉によるもので、故障ではありません。
スクリーンを交換するか、本機のフォーカスを少しずらしてみてください。（17、20 ページ参照）

画面が台形にひずむときは

スクリーンと本機が垂直になっていないと画面が台形になります。本機およびスクリーンを調整しても垂直にならないときはプロジェクションメニューの「プロジェクションアプリケーション」の「キーストン」設定を変更します。以下の操作を行って、設定を変更してください。

1 プロジェクションメニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲、▼ボタンを押してプロジェクションアプリケーションを選択し、◀、▶ボタンを押して「キーストン」を選択する



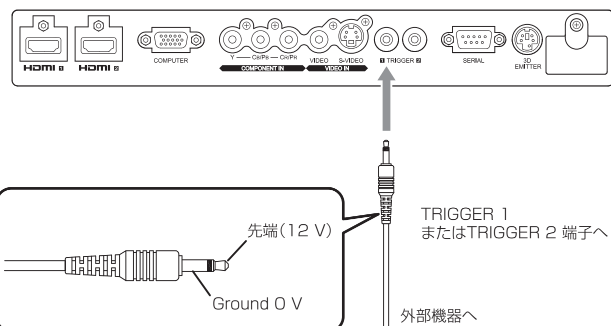
3 垂直補正を選択して、映像を見ながら◀、▶ボタンを押して映像の上と下の端で幅が同じになるように調整する

4 水平補正を選択して、映像を見ながら◀、▶ボタンを押して映像の左と右の端で縦の長さが同じになるように調整する

5 MENU ボタンを押してメニューを消す

TRIGGER 端子について

プロジェクター側面の TRIGGER 端子は、投写時に外部機器制御用の 12V の信号を出力する端子です。電動スクリーンなどに接続します。



TRIGGER 端子を使用するためには、設定メニューの「トリガー 1（電源）」または「トリガー 2（アナモ）」の設定を「オン」にする必要があります。（工場出荷時には「オフ」になっています。詳しくは 35 ページをご覧ください。）以下の操作を行って、設定を変更してください。

1 設定メニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲、▼ボタンを押して「トリガー 1(電源)」または「トリガー 2(アナモ)」を選択する

トリガー1(電源)	オフ
トリガー2(アナモ)	オフ

3 ◀、▶ボタンを押して「オン」を選択する

4 MENU ボタンを押してメニューを消す

⚠注意

- TRIGGER 端子の出力を他の機器の電源などに使用しないでください。
- 他の機器の音声端子などに接続すると、他の機器の故障の原因になります。
- TRIGGER 端子の定格電流は 200mA です。定格を越えて使用すると故障の原因になります。
- 電動スクリーンについては、スクリーンメーカーにお問い合わせください。

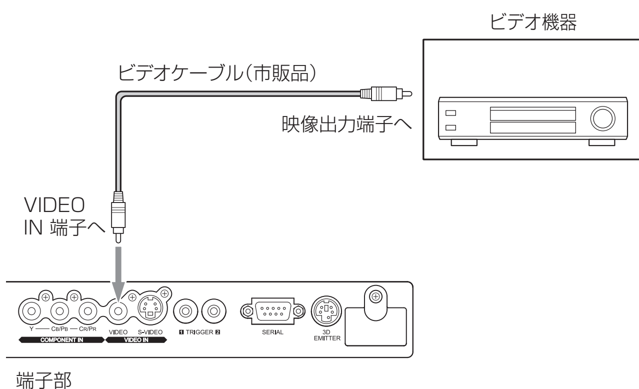
ビデオ映像を見る

A. ビデオ機器と接続する

● 接続する機器の説明書もあわせてごらんください。
● 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

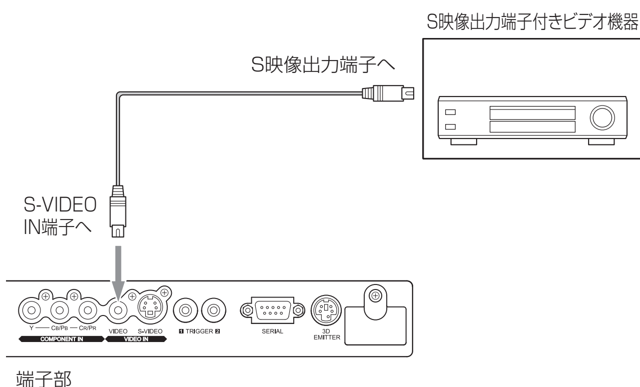
● プロジェクターおよびビデオ機器の電源が切れていることを確認する



1 市販のビデオケーブルのプラグを本機の VIDEO IN 端子に接続する

2 ビデオ機器の映像出力端子にビデオケーブルのもう一方のプラグを接続する

S 映像出力端子付きビデオ機器と接続する

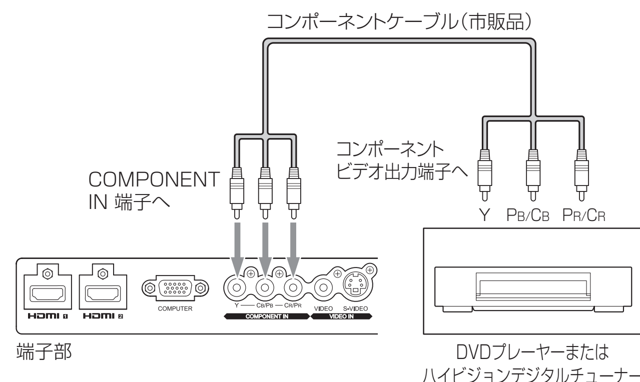


1 市販の S ビデオケーブルを本機の S-VIDEO IN 端子に接続する

2 ビデオ機器の S 映像出力端子に S ビデオケーブルのもう一方を接続する

DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーと接続する

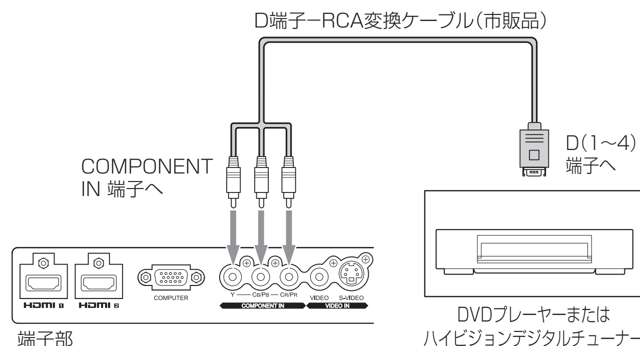
DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーなど、コンポーネントビデオ出力端子を持つ機器と本機を接続するときは、COMPONENT IN 端子に接続します。



● DVD プレーヤーおよびハイビジョンデジタルチューナーによっては映像が正しく投写できない場合があります。

D 端子付き DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーと接続する

DVD プレーヤーまたはハイビジョンデジタルチューナーなど、D 端子を持つ機器と本機を接続するときは、市販の D 端子ー RCA 変換ケーブルを使って、COMPONENT IN 端子に接続します。



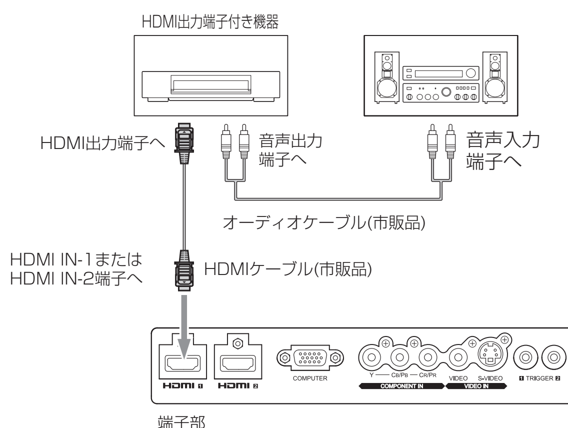
● DVD プレーヤーおよびハイビジョンデジタルチューナーによっては映像が正しく投写できない場合があります。

HDMI 出力端子付き映像機器との接続

本機は、HDMI 出力端子付きの映像機器と接続することにより、高画質な映像が投写できます。また、HDCP に対応していますので、DVD プレーヤーなどから出力される暗号化されたデジタル画像を受信することができます。

- HDCP（High-band with Digital Content Protection）とは、Intel 社によってコンテンツ保護を目的に開発されたデジタル画像信号の暗号化形式の1つです。
- HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは、DVI をベースに発展した、コンピューター、ディスプレイ、家電機器対応のデジタル信号入出力インターフェース規格です。
- 本機は HDMI 出力端子付きの映像機器と接続することができますが、一部の機器では映像が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 映像が出ないなど正常に動作しない場合、映像機器の取扱説明書の接続方法を確認してください。
- HDMI 規格適合品以外を使用すると正常に動作しない場合があります。
- 長いケーブルを使用すると映像が正常に映らないことがあります。

接続例（HDMI 出力端子付き映像機器の場合）



- 接続は、市販の HDMI ロゴの付いている HDMI ケーブルをご使用ください。
- コネクター部の大きさ、形状によっては正しく接続できないことがあります。

デジタル機器との接続について

本機とデジタル機器（DVD プレーヤーなど）を HDMI IN 端子で接続した場合、機器によっては映像の黒レベルが沈み、黒つぶれすることがあります。これはデジタル映像伝送の規格が 2 種類あり、黒レベルの設定がそれぞれ異なるためです。デジタル機器によっては異なる規格の信号を出力するものがあります。

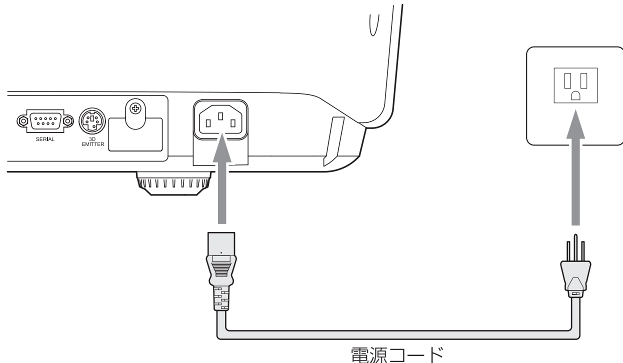
- デジタル機器には、デジタル出力信号規格を切り換える機能が搭載されているものがあります。その場合は、下記のように切り換えてください。
  エクスパンドまたはエンハンスド → ノーマル
  詳細はデジタル機器の取扱説明書をご参照ください。
- デジタル機器にデジタル出力信号規格を切り換える機能が搭載されていない場合は、入力メニューの HDMI 入力設定をご使用の機器に合わせて設定してください。

ビデオ映像を見る（つづき）

B. 電源コードを差し込む

- 万一、本機が故障した場合においても安全性が確保できるように、漏電ブレーカーを備えたコンセントから本機に電源を供給してください。漏電ブレーカーを備えたコンセントがない場合は、販売店に工事をご依頼ください。

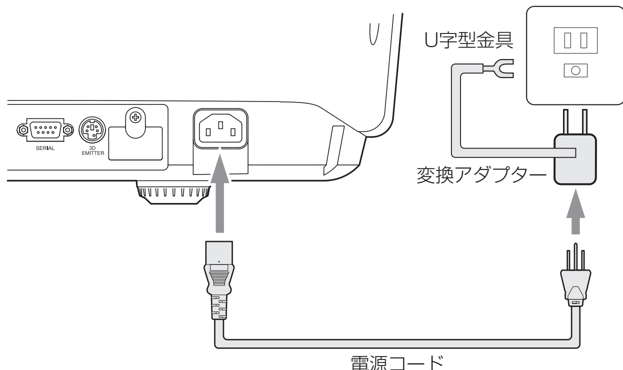
電源コンセントにアース端子の差込口が付いている場合



1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

2 電源コードの電源プラグを電源コンセントに差し込む

電源コンセントにアース端子の差込口が付いていない場合



1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

2 電源コードの電源プラグに付属の変換アダプターを取り付ける

3 変換アダプターのU字型金具を電源コンセントのアース端子に接続する（接地）

- 接地接続は必ず、変換アダプターを電源コンセントに差し込む前に行ってください。また、接地接続をはずす場合は、必ず変換アダプターを電源コンセントから抜いたあとに行ってください。
- 変換アダプターのアースをガス管・水道管・避雷針などへ絶対に取り付けないでください。
- 電源コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください（有料）。

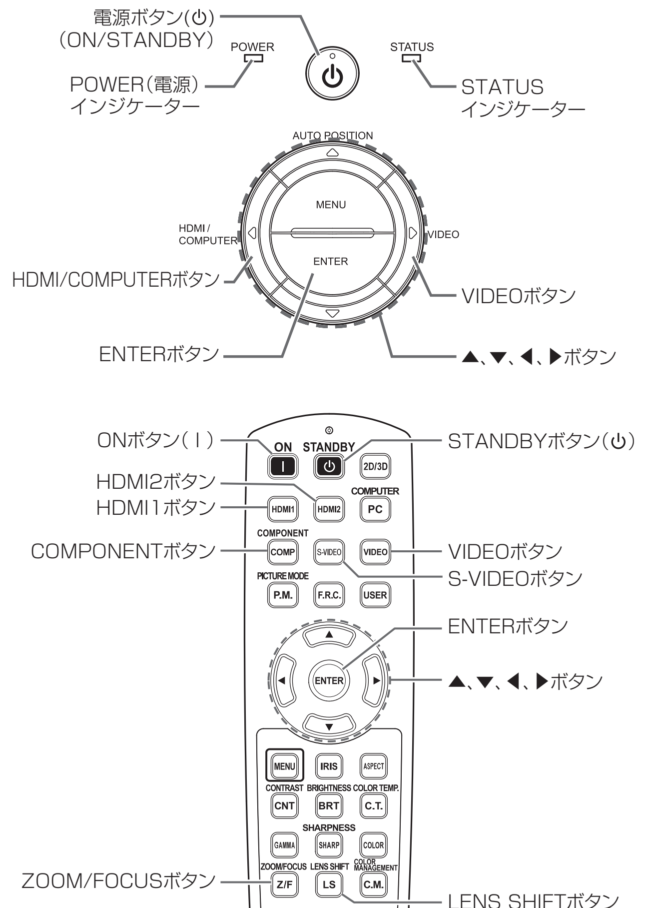
4 変換アダプターを電源コンセントに差し込む

- 本機の電源は、必ずアース付き交流100Vのコンセントを使用してください。

C. 投写する

準備

- レンズキャップをはずす



電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる



- POWER インジケーターが赤色に点灯します。

2 ビデオ機器の電源を入れる

3 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンのONボタン（ I ）を押す



● ランプ点灯に 1 分程度かかる場合があります。
● まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってからもう一度点灯させてください。
● 電源を入れたあと、またはランプモードが切り換わったあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
● STATUS インジケーターが橙点灯すると、まもなくランプ交換が必要な時期です。
STATUS インジケーターが赤点灯したらランプを交換してください。
● 使用中はレンズキャップをレンズにかぶせないでください。

ピントを調整する

4 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面に「レンズフォーカス」を表示させる

5 ▲、▼ ボタンを押してピントを調整する

入力を切り換える

6 リモコンの VIDEOボタン、S-VIDEOボタン、COMPONENT ボタン、HDMI1ボタン、HDMI2 ボタン、または本体の VIDEOボタン、HDMI/COMPUTERボタンを押して、接続に使った端子の入力に切り換える

● 本体の VIDEO ボタンを押すごとに「ビデオ」→「S- ビデオ」→「COMP.」→「ビデオ」と切り換わります。
● 本体の HDMI/COMPUTER ボタンを押すごとに「PC」→「HDMI1」→「HDMI2」→「PC」と切り換わります。
● DVD プレーヤーなど、HDCP 対応の HDMI 機器と接続している場合、入力切換え時などに、まれに映像が正しく表示されないことがあります。そのときは、一度他の入力に切換えてから、もう一度 HDMI 入力に切換えてください。
● 本機は入力信号に最適な設定になるように自動調整が行われます。（情報メニューに選ばれている入力解像度が表示されます。）
● 入力信号によっては、映像が投写されるまで時間がかかりますが、故障ではありません。
● 投写する映像によってはアスペクト比（画角）を変更した方が見やすい場合があります。（18 ページ参照）
● COMPONENT 入力時に画面がちらつくときは、入力メニューで位相を調整してちらつきをなくしてください。

設置する

7 所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する

● スクリーンから本機までの距離は 11、12 ページの表を目安にして設置してください。

8 本機とスクリーンが垂直になるように設置する

9 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面に「レンズフォーカス」を表示させ、再度ボタンを押して「レンズズーム」を表示させる

10 ▲、▼ ボタンを押して投写画面サイズに合わせる

11 LENS SHIFT ボタンを押して画面に「レンズシフト」を表示させる

12 ▲または▼ボタンを押して上下方向、◀または▶ボタンを押して左右方向を調整し画面位置を合わせる

● レンズシフト動作中はレンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
● 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください（13 ページ参照）。

必要に応じて、操作 4 、5 および 9 ～ 12 の設定を微調整してください。

電源を切る

以下のようにして電源を切ってください。電源プラグを抜いて電源を切った場合、ランプ性能の劣化や本体故障の原因となることがあります。

13 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンの STANDBY ボタン（⏻）を押す

● 確認のメッセージが表示されます。
● この状態を解除するには、MENU ボタンを押してください。なお、しばらくすると自動的にメッセージは消えます。

14 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンの STANDBY ボタン（⏻）をもう一度押す

● 光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、POWER インジケーターは赤点滅、STATUS インジケーターは消灯します。

15 POWER インジケーターの赤点滅が赤点灯に変わるまで、約 2 分間そのまま待つ

● スタンバイ状態で約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸、排気ファンが回っているからです。
● プロジェクター周囲の温度が高くなると排気ファンの動作音が大きくなります。
● POWER インジケーターが点滅中は、主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。使用後すぐに主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりすると、故障の原因となることがあります。
● 冷却中はファンの動作音が大きくなりますが、故障ではありません。

16 主電源スイッチを切る

● POWER インジケーターが消灯します。
● 万一、吸・排気ファンの回転中またはランプの点灯中に主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合は、プロジェクターを冷却するため、10 分間電源を切ったままにしておいてください。ランプを再度点灯させる場合は、電源ボタン（⏻）を押してください。ランプがすぐに点灯しない場合は、数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。それでもランプが点灯しない場合は、ランプを交換してください。
● 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。

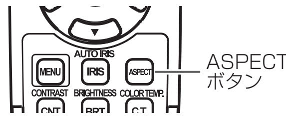
D. アスペクト比（画角）の設定について

本機は、入力された映像信号に対してアスペクト比（画面の縦横比）を変更することができます。入力された映像信号に合わせて、設定を変更してください。

リモコンを使って設定する

1 ASPECT ボタンを押す

● 画面にアスペクト比切り換え用の表示が出ます。



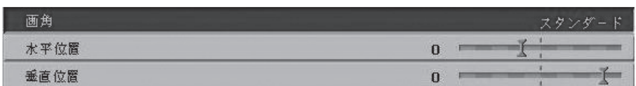
2 ASPECT ボタンを押してお好みのアスペクト比に切り換える

● アスペクト比の設定は、「スタンダード」、「全画面」、「アナモフィック１」、「アナモフィック２」の中から選択できます。
● 信号の種類によって選択できない設定があります。

本体操作部を使って設定する

1 スクリーンメニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲、▼ボタンを押して「画角」を選ぶ



3 ◀、▶ボタンを押してお好みの画角（アスペクト比）を選択する

4 MENU ボタンを押してメニューを消す

：信号サイズ

設定 ＼ 元画像		スタンダード	全画面	アナモフィック１	アナモフィック２
		画角は入力信号に応じて変化します	スクイーズの映像 16：9 に引き延して表示します	アナモフィックレンズを使って 2.35：1 の映像を見る場合に最適なモードです	アナモフィックレンズを使って 16：9、4：3、パソコンの映像を見る場合に最適なモードです
4：3 信号（SD 信号）					
16：9 信号（HD 信号）					
PC 信号（4：3）					
2.35：1 信号					

● 太枠は、おすすめのモードです。
● 本機はアスペクト比切り換え機能を備えていますが、入力信号と異なるアスペクト比を選択されますと、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えます。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像は、元の入力信号と同じアスペクト比に設定してごらんください。
● 本機を営利目的または公衆に視聴させることを目的として、店内外、ホテルなどにおいて、アスペクト比切り換えを利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作権の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

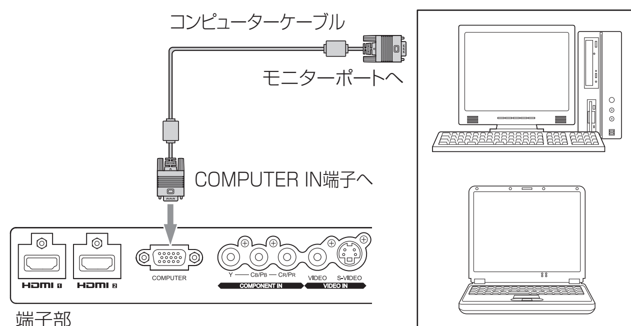
コンピューターの映像を見る

A. コンピューターと接続する

- 接続する機器の説明書もあわせてごらんください。
- 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

- プロジェクターおよびコンピューターの電源が切れていることを確認する
- デスクトップタイプの場合、モニターに接続されているコンピューターケーブルをはずす



1 付属のコンピューターケーブルを本機の COMPUTER IN 端子に接続する

2 コンピューターのモニターポートにコンピューターケーブルのもう一方を接続する

- 接続するコンピューターの機種によっては、変換コネクタやアナログ RGB 出力アダプターなどが必要な場合があります。
- 付属のコンピューターケーブル以外の長いケーブルを使用すると映像が正常に映らないことがあります。

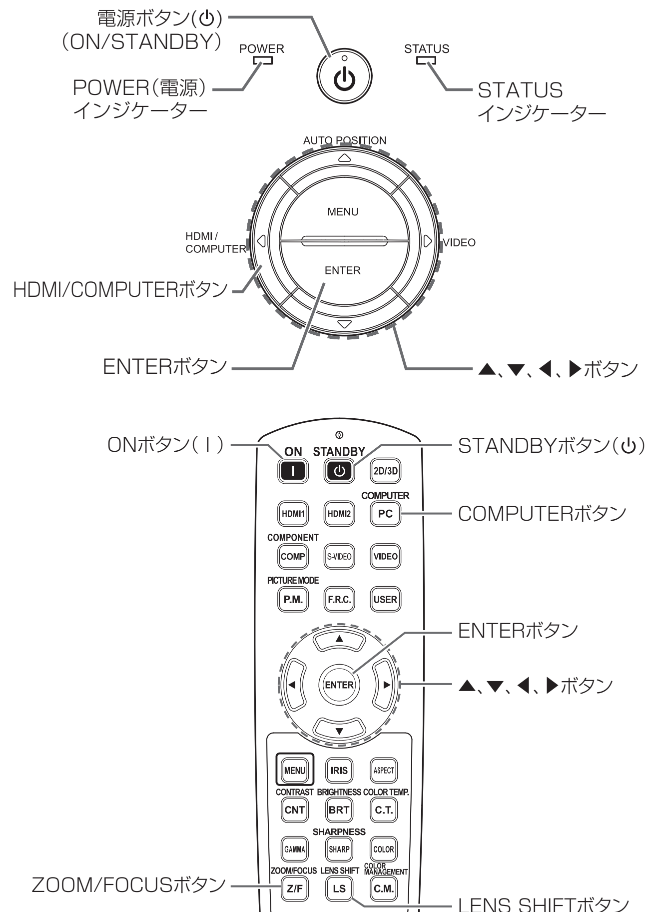
B. 電源コードを差し込む

「ビデオ機器と接続する」と同じです。16 ページをごらんください。

C. 投写する

準備

- レンズキャップをはずす



電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる



- POWER インジケーターが赤色に点灯します。

2 コンピューターの電源を入れる

3 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンの ON ボタン（ I ）を押す



コンピューターの映像を見る（つづき）

- ランプ点灯に 1 分程度かかる場合があります。
- まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってからもう一度点灯させてください。
- 電源を入れたあと、またはランプモードが切り換わったあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- STATUS インジケーターが橙点灯すると、まもなくランプ交換か必要な時期です。STATUS インジケーターが赤点灯したらランプを交換してください。
- 使用中はレンズキャップをレンズにかぶせないでください。

ピントを調整する

4 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面に「レンズフォーカス」を表示させる

5 ▲、▼ ボタンを押してピントを調整する

入力を切り換える

6 リモコンの COMPUTER ボタンまたは本体の HDMI/COMPUTER ボタンを押す

- 本体の HDMI/COMPUTER ボタンを押すごとに「PC」→「HDMI1」→「HDMI2」→「PC」と切り換わります。
- 入力信号によっては、映像が投写されるまで時間がかかりますが、故障ではありません。
- 映像が正しく投写されない場合、オートポジションを実行してください。(右下欄参照)
- 本機は入力信号に最適な設定になるように自動調整が行われます。（情報 メニューに選ばれている入力解像度が表示されます。）
- メニュー画面表示中は、入力切換できません。
- ノートタイプのコンピューターの場合、コンピューター側の設定を変更しないと映像が投写されない場合があります。詳しくは右下欄をごらんください。
- COMPUTER 入力時に画面がちらつくときは、入力メニューで位相を調整してちらつきをなくしてください。

設置する

7 所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する

- スクリーンから本機までの距離は 11、12 ページの表を目安にして設置してください。

8 本機とスクリーンが垂直になるように設置する

9 ZOOM/FOCUS ボタンを押して画面に「レンズフォーカス」を表示させ、再度ボタンを押して「レンズズーム」を表示させる

10 ▲、▼ ボタンを押して投写画面サイズに合わせる

11 LENS SHIFT ボタンを押して画面に「レンズシフト」を表示させる

12 ▲または▼ボタンを押して上下方向、◀または▶ボタンを押して左右方向を調整し画面位置を合わせる

- レンズシフト動作中は、レンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。
- 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください（13 ページ参照）。

必要に応じて、操作 4 、5 および 9 ～ 12 の設定を微調整してください。

電源を切る

以下のようにして電源を切ってください。電源プラグを抜いて電源を切った場合、ランプ性能の劣化や本体故障の原因となることがあります。

13 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンの STANDBY ボタン（⏻）を押す

- 確認のメッセージが表示されます。
- この状態を解除するには、MENU ボタンを押してください。なお、しばらくすると自動的にメッセージは消えます。

14 本体の電源ボタン（⏻）またはリモコンの STANDBY ボタン（⏻）をもう一度押す

- 光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、POWER インジケーターは赤点滅、STATUS インジケーターは消灯します。

15 POWER インジケーターの赤点滅が赤点灯にかわるまで、約 2 分間そのまま待つ

- スタンバイ状態で約 2 分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸、排気ファンが回っているからです。
- プロジェクター周囲の温度が高くなると排気ファンの動作音が大きくなります。
- POWER インジケーターが点滅中は、主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。使用後すぐに主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりすると、故障の原因となることがあります。
- 冷却中はファンの動作音が大きくなりますが、故障ではありません。

16 主電源スイッチを切る

- POWER インジケーターが消灯します。
- 万一、吸・排気ファンの回転中またはランプの点灯中に主電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合は、プロジェクターを冷却するため、10 分間電源を切ったままにしておいてください。ランプを再度点灯させる場合は、電源ボタン（⏻）を押してください。ランプがすぐに点灯しない場合は、数分たってから再度電源ボタン（⏻）を押してください。それでもランプが点灯しない場合は、ランプを交換してください。
- 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。

ノートタイプの場合

ノートタイプのコンピューターと接続した場合、映像が投写されない場合があります。そのときは、コンピューターの信号を外部に出力させる設定を行ってください。設定のしかたは、コンピューターによって異なりますので、コンピューターの取扱説明書をごらんください。

- 外部出力させる操作の例
  「Fn」キー＋「 F1」～「F12」キーのいずれか（機種によって異なります）を押す。

オートポジションについて

コンピューターの映像がずれるときは以下の操作を行ってください。

1 できるだけ明るい画面（ゴミ箱などのウィンドウを全画面表示にするなど）にする。
2 スクリーンセーバーがはたらいているときは、スクリーンセーバーを解除する。
3 入力メニューからオートポジションを選択して実行。

- 入力信号に最適な設定になるように自動調整が行われます。
- 数回、オートポジションを実行してもまだずれる場合はスクリーンメニューで設定を変更して画面の位置を合わせてください。(33 ページ参照)
- 暗い映像でオートポジションを実行してもずれる場合があります。

解像度の設定について

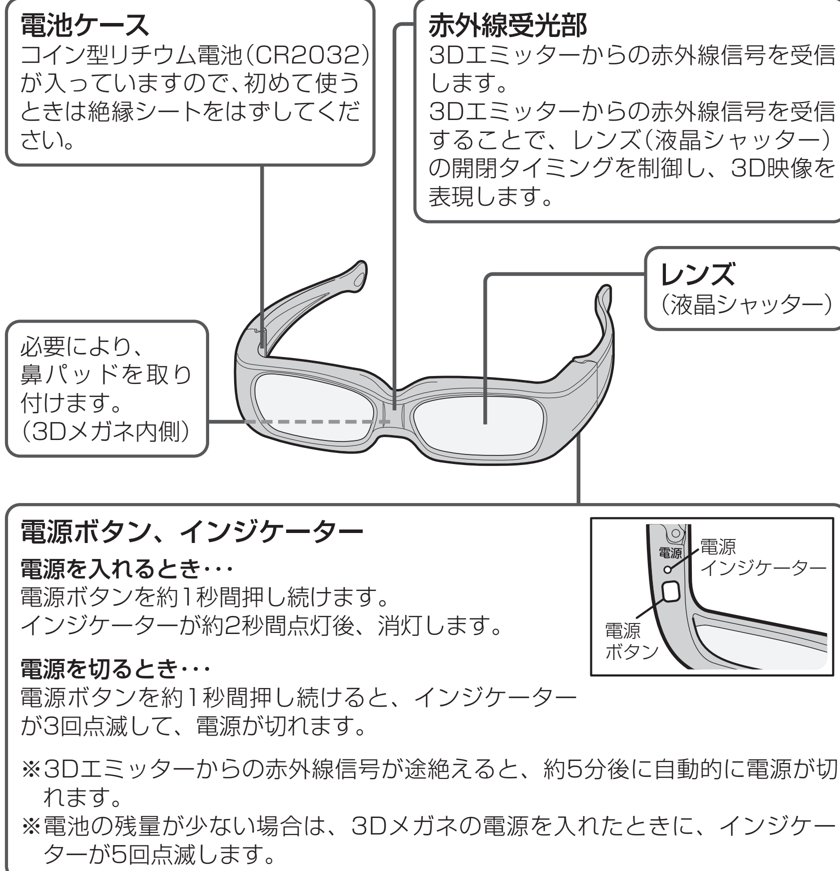
コンピューターとプロジェクターの解像度が合っていない場合、映像がにじむことがありますので、双方の解像度を合わせてください（50、51 ページ参照）。なお、コンピューターの出力解像度の変更方法については、コンピューターメーカーにお問い合わせください。

3D 映像を見る

本機と別売りの 3D メガネ（EY-3DGLLC1-PJ）と 3D エミッター（EY-3D-EMT1）を使用することにより、3D 映像を楽しむことができます。
ご使用の前に、3D メガネと 3D エミッターの取扱説明書をご覧ください。

3D メガネについて（EY-3DGLLC1-PJ）

3D メガネは、視力矯正用メガネの上からかけることができます。 3D メガネと 3D エミッターを使って、本機で 3D 映像に対応した放送などを見ると、3D 映像が楽しめます。



準備

1 絶縁シートをはずす	2 保護シートをはがす	3 必要に応じて、付属の鼻パッドを取り付ける
下図の矢印の方向へ、ゆっくりと引き抜いてください。	図のようにつまみを持ち上げて、赤外線受光部（1 ヵ所）とレンズ（4 ヵ所）の保護シートをはがしてください。	視力矯正用メガネの上から 3D メガネを装着するときは、鼻パッドをはずして装着することをおすすめします。

3D 映像を見る（つづき）

レンズ（液晶シャッター）について

- レンズに力を加えないでください。
  また、製品を落としたり、曲げたりしないでください。
- 鋭利なものでレンズの表面を引っかかないでください。
  レンズが破損し、3D 映像の品質が低下するおそれがあります。

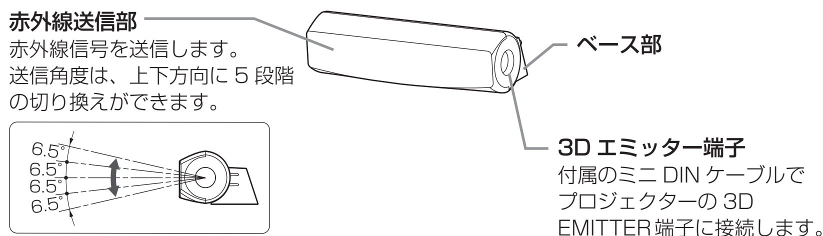
赤外線受光部について

- 赤外線受光部を汚したり、シールなどを貼らないでください。3D エミッターからの信号を受信できなくなり、3D メガネが正常に動作しなくなることがあります。
- 別の赤外線通信装置の影響があると、正しい 3D 映像を見ることができない場合があります。
- リモコンを操作すると 3D メガネが誤作動することがありますが、故障ではありません。リモコンの操作をやめると正常に戻ります。
- 3D 映像を視聴中は、リモコンがききにくいことがありますが、故障ではありません。

3D メガネを使用するときは

- 3D メガネの近くで強い電磁波を生じる機器（携帯電話など）を使用しないでください。誤動作の原因となります。
- 0℃～ 40℃の間でご使用ください。
- 蛍光灯をご使用の部屋で視聴すると、部屋全体の明かりがちらついて見えることがあります。このような場合は、3D メガネおよび 3D エミッターを蛍光灯からなるべく離して設置したり、蛍光灯を消したりして視聴してください。
- 3D メガネは正しく装着してください。上下を反対にしたり、前後を逆にしたりすると、正しい立体像を見ることができません。
- 3D メガネをかけた状態では、他のディスプレイ（パソコン画面、デジタル時計、電卓など）の表示が見づらくなることがあります。3D 映像を視聴するとき以外は、3D メガネをはずして見てください。
- 3D メガネはサングラスではありません。サングラスとして使用しないでください。
- 映画館等で本品は使えません。
- 3D メガネを装着しても、横になった状態では 3D 映像にはなりません。
- 3D メガネのツル（テンプル）を引っぱらないでください。破損の原因となります。

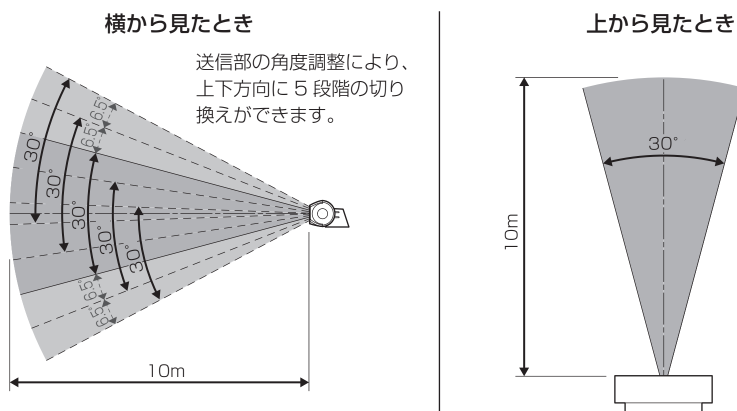
3D エミッター（EY-3D-EMT1）について



設置と接続

赤外線信号の送信範囲について

3D エミッターからは下図の範囲で赤外線信号が送信されます。



上記の数値はおよその値であり、実際の測定値とは多少異なることがあります。

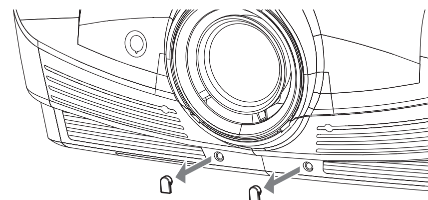
3D エミッターは、3D メガネの使用位置がこの送信範囲内に収まるよう設置してください。
基本的には、23 ページのようにプロジェクターに取り付けます。
ただし、プロジェクターに取り付けたときに 3D メガネで信号を適切に受信できない場合は、23 ページのように設置してください。

- 3D エミッターと 3D メガネの交信範囲には障害物がないようにしてください。
- 3D エミッターを他の機器のリモコン受光部の近くには設置しないでください。
- 3D エミッターからの赤外線信号をスクリーンに反射させて 3D メガネに送信する場合、送信距離は減少します。また、送信距離はスクリーンの特性によって変わります。

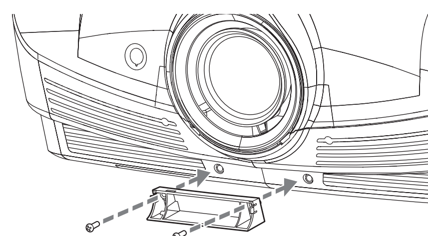
3D エミッターをプロジェクターに設置する

準備：プロジェクターの主電源を切る

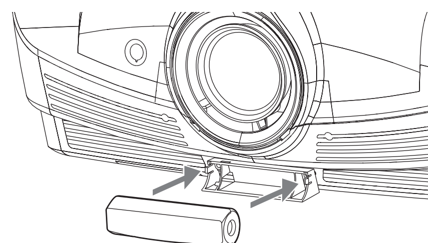
1 プロジェクターの 3D エミッター取り付け部のキャップを外す



2 付属のネジを使用して、3D エミッターのベース部をプロジェクターの 3D エミッター取り付け部に取り付ける



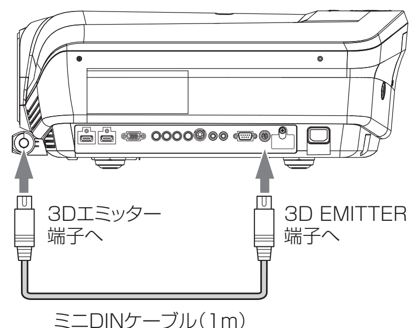
3 3D エミッターの赤外線送信部をベース部にはめ込む



4 付属のミニ DIN ケーブル（1m）で、3D エミッターの 3D エミッター端子とプロジェクターの 3D EMITTER 端子を接続する

5 3D メガネの準備をする

6 3D メガネが赤外線信号を受信できるように、3D エミッターの上下角度を調整する



3D エミッターを任意の位置に設置する

準備：プロジェクターの主電源を切る

1 3D エミッターの赤外線送信部をベース部にはめ込む

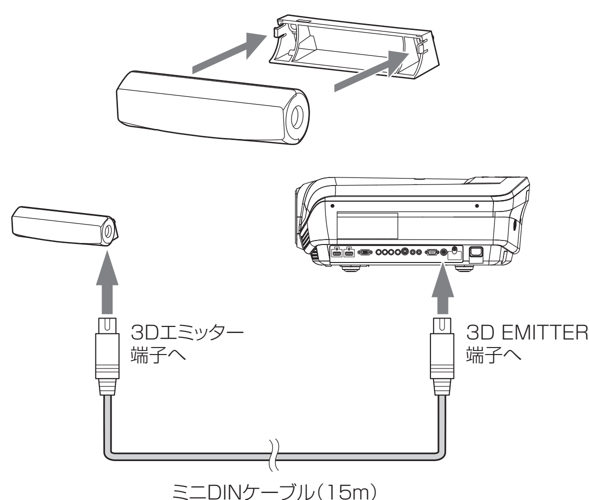
2 3D エミッターを任意の位置（スクリーン周囲の壁面など）に仮止めする

3 付属のミニ DIN ケーブル（15m）で、3D エミッターの 3D エミッター端子とプロジェクターの 3D EMITTER 端子を接続する

4 3D メガネの準備をする

5 3D メガネが赤外線信号を受信できるように、3D エミッターの位置・角度を調整する

- 調整が終わったら、付属の両面テープなどで 3D エミッターをしっかりと固定してください。



3D 映像を見る（つづき）

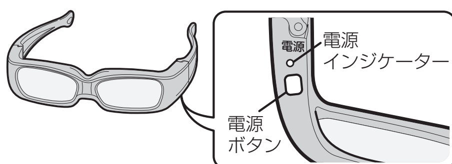
3D 映像の表示

本機では、次の 3D 映像に対応した放送や入力信号を立体的な映像として視聴するこができます。(2011 年 1 月現在)

● HDMI IN-1 または HDMI IN-2 端子に接続した 3D 映像対応レコーダー／プレーヤーから入力した 3D 映像（サイドバイサイド方式、トップアンドボトム方式、フレームパッキング方式）
● 地上デジタル放送、BS デジタル放送、110 度 CS デジタル放送の 3D 映像（サイドバイサイド方式）
（CATV（ケーブルテレビ）からの 3D 映像の視聴については、CATV 会社へお問い合わせください。）

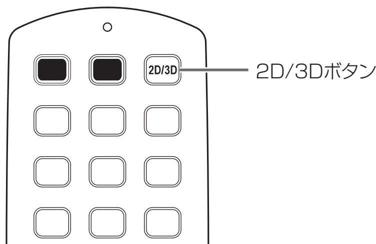
1 3D 映像をスクリーンに投写する

2 3D メガネの電源ボタンを約 1 秒間押し続けて、3D メガネの電源を入れる



3 3D メガネを装着する

● 映像が自動的に 3D に切り替わらない場合には、リモコンの 2D/3D ボタンを押してください。



● リモコンの 2D/3D ボタンを押すごとに「AUTO」→「フレームパッキング」→「サイドバイサイド」→「トップアンドボトム」→「2D」→「AUTO」と切り換わります。

3D 映像の見えかたを切り換える（3D 明るさ調整、3D Sync）

3D 明るさ調整（34 ページを参照）

3D 映像表示の明るさを調整することができます。数値が大きくなるほど 3D メガネで見たときの映像が明るくなります。

3D Sync（34 ページを参照）

3D 映像を視聴中に違和感を感じるときは、3D 映像の左右と 3D メガネのレンズ (液晶シャッター) 左右切換が合っていない可能性があります。メニューの「3D Sync」で 3D メガネ側の左右を反転させると違和感がなくなる場合があります。

3D 映像を見るときの距離について

● 推奨距離より近い距離で視聴すると、体調不良や目の疲れの原因になることがあります。
● スクリーンから離れすぎると、3D メガネが正常に動作しなくなることがあります。

3D 映像の視聴について

● 3D 映像を視聴する前に、3D メガネと 3D エミッターの取扱説明書をよくお読みください。
● 入力メニューの「2D/3D」でも 3D モードを切り換えることができます。
● 本機を 3D モードで使用する (3D 映像を投写する) と、本機の 3D EMITTER 端子に接続した 3D エミッターのインジケーターが緑色に点灯します。
● 3D 映像対応レコーダー／プレーヤーからの 3D 映像を投写する場合､レコーダー／プレーヤー側の 3D モード (「3D 設定方式」など) の切り換えが必要な場合があります。詳しくは、レコーダー／プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
● 3D 映像の見えかたには、個人差があります。
近視や遠視、乱視、左右の視力が異なる方は、視力矯正メガネの装着などによって視力を適切に矯正した上で、3D メガネを使用して視聴してください。
● 3D 映像の視聴を始めてしばらくは、映像が少しずれて見えることがありますが、故障ではありません。
● サイドバイサイド方式／トップアンドボトム方式の 3D 映像を視聴しているときはメニューを表示することができません。メニューボタンや電源ボタンなどを押すなどすると 3D モードが 2D に切り換わります。
再度 3D 映像を見るためには、3D モードを切り換えてください。

⚠注意

3D 映像を視聴するときは

● 3D 映像を視聴中に疲労感、不快感など異常を感じたら、視聴を中止してください。また、3D メガネを使用中にはっきりと二重に映像が見えたら、視聴を中止してください。そのまま視聴すると、体調不良や目の疲れの原因になることがあります。適度な休憩をとり、長時間連続して視聴しないでください。
● 回転や揺れ、動きの速い映像を視聴中に不快感など異常を感じたときはスクリーンの外に目を逸らすなどして注視を止めてください。
● 3D 映画などの場合には、1 作品を目安に適度な休憩をとってください。3D ゲームなどの 3D 映像の場合は、30 分～1 時間を目安に適度な休憩をとってください。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますのでご自身で判断してください。
● 不快な症状が出たときは、回復するまで 3D 映像の視聴や 3D ゲームのプレイをやめ、必要に応じて医師にご相談ください。また、回復するまで (2 時間程度) は自動車などの運転をしないでください。回復するまでの時間は個人によって異なりますので、ご自身で判断してください。
● お子様の視聴年齢は 5 ～ 6 歳以上を目安としてください。お子様の場合は、疲労や不快感などに対する反応がわかりにくいため急に体調が悪くなることがあります。お子様が視聴の際は、保護者の方がお子様の体調変化や目の疲れに注意し、適度な休憩を取るように監督してください。

● 次のようなときは 3D メガネを使用しないでください。
○光過敏の既往症がある　○酒気を帯びている
○心臓に疾患がある　○睡眠不足
○てんかんの既往症がある　○妊婦
○体調不良や疲れているとき
● 3D 映像を視聴中に誤ってスクリーンや人を叩かないように注意してください。3D 映像を視聴するときは周囲に壊れやすいものを置かないようにしてください。
スクリーンとの距離を誤って周囲のものを叩いたり、体を動かして周囲のものを壊すなど、けがや故障の原因になることがあります。
● 3D メガネに異常・故障がある場合は使用を中止してください。
● 3D メガネをかけたまま移動しないでください。
周囲が暗くなり、転倒などによるけがの原因になることがあります。
● 3D メガネは本機で 3D 映像を見る以外の用途には使用してないでください。
● 3D メガネが割れた状態では使用しないでください。
● 3D メガネにものを落としたり、力を加えたり、踏んだりしないでください。
ガラス部分などが破損して、けがの原因になることがあります。
フレームをねじるなど無理な力を加えると、レンズが割れる場合があります。使用後は付属のケースに入れて、お子様の手の届かないところに保管してください。
● 3D 映像を見るときは 3D メガネを使用し、両目を水平に近い状態でなるべく正面から視聴してください。
体調不良や目の疲れの原因になることがあります。

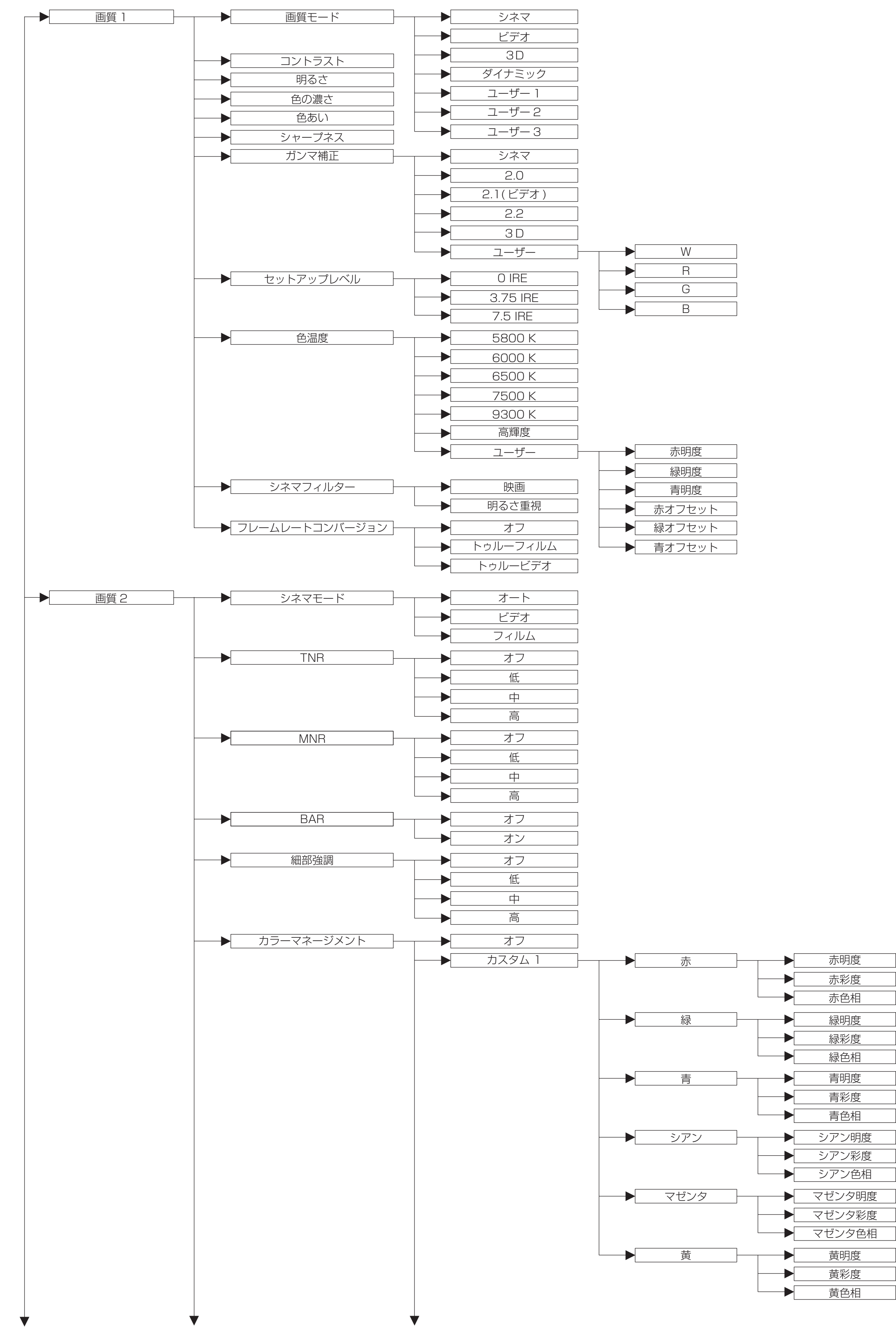


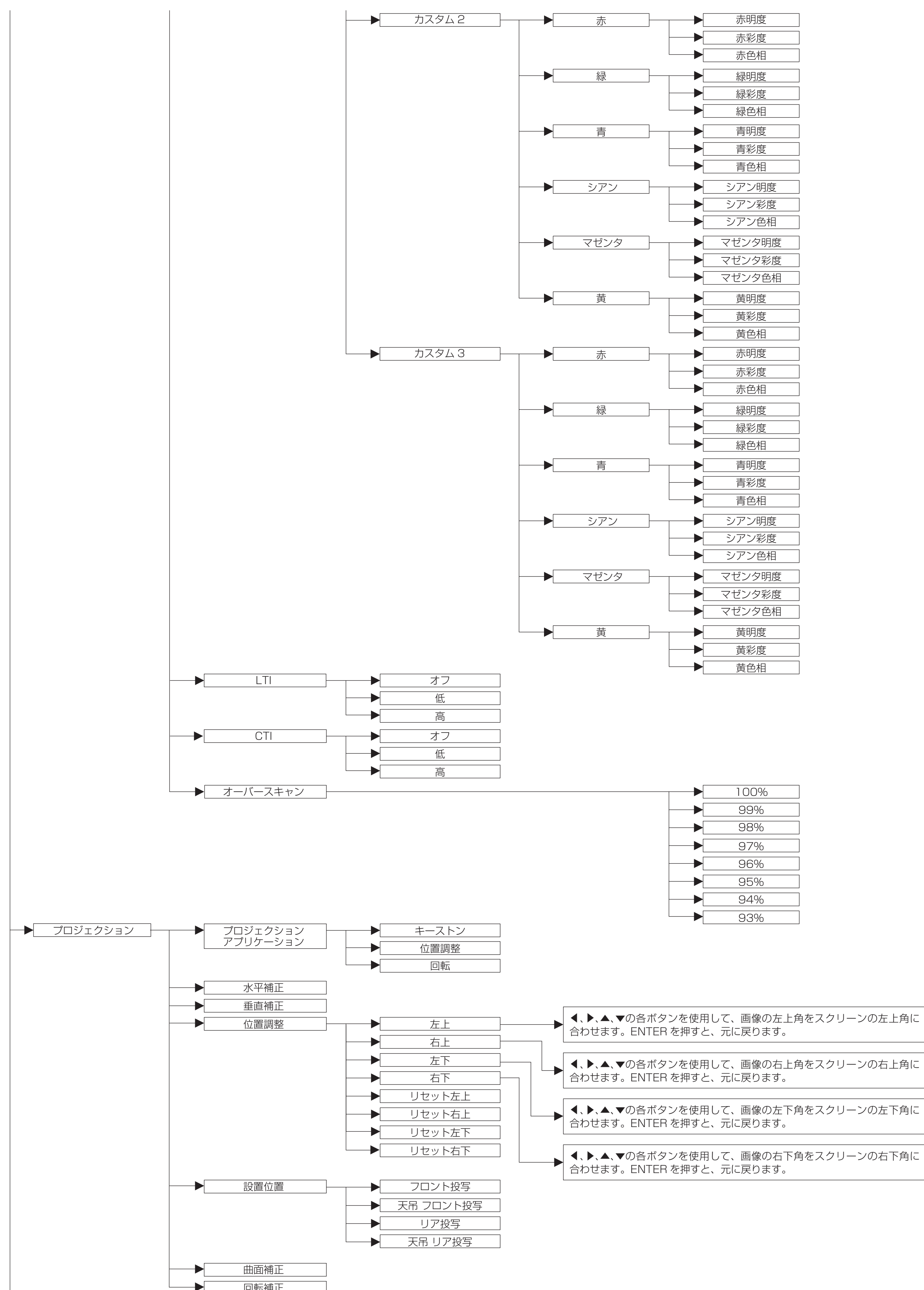
近視や遠視、乱視、左右の視力が異なる方は、視力矯正メガネの装着などによって視力を適切に矯正したうえで 3D メガネを使用してください。
● 3D 映像を見るときは、画面の高さの約 3 倍以上スクリーンから離れて距離で視聴してください。
● 鼻やこめかみが赤くなったり、痛みやかゆみを感じたり、肌に異常を感じたら 3D メガネの使用を中止してください。長時間の使用による圧力により発生することがあり、体調不良の原因になることがあります。また、ごくまれに 3D メガネの塗料や材質でアレルギーの原因になりことがあります。
● 3D メガネのヒンジ部に指をはさまないようにしてください。特にお子様にご注意ください。けがの原因になります。
● 3D メガネの装着時はフレームの先端に注意してください。目をついて、けがの原因になることがあります。3D メガネは両手で持ち、正しく装着してください。
● HDMI 信号分配器または AV アンプ経由で HDMI ケーブルを使って本機とレコーダー／プレーヤーなどを接続するときは、HDMI 信号分配器や AV アンプが HDMI1.4(3D) 対応であることを確認してください。
● 本機は 3D メガネのレンズ（液晶シャッター）の開閉タイミングを 3D エミッターからの赤外線信号を利用して制御しています。
3D 映像を視聴中は、まれに赤外線信号を利用した他の機器（エアコン、照明機器等）のリモコンがききにくいことがありますが、故障ではありません。

メニューを使って設定する

メニュー遷移図

入力信号や信号フォーマットの種類によって、操作できないまたは表示されないメニューがあります。

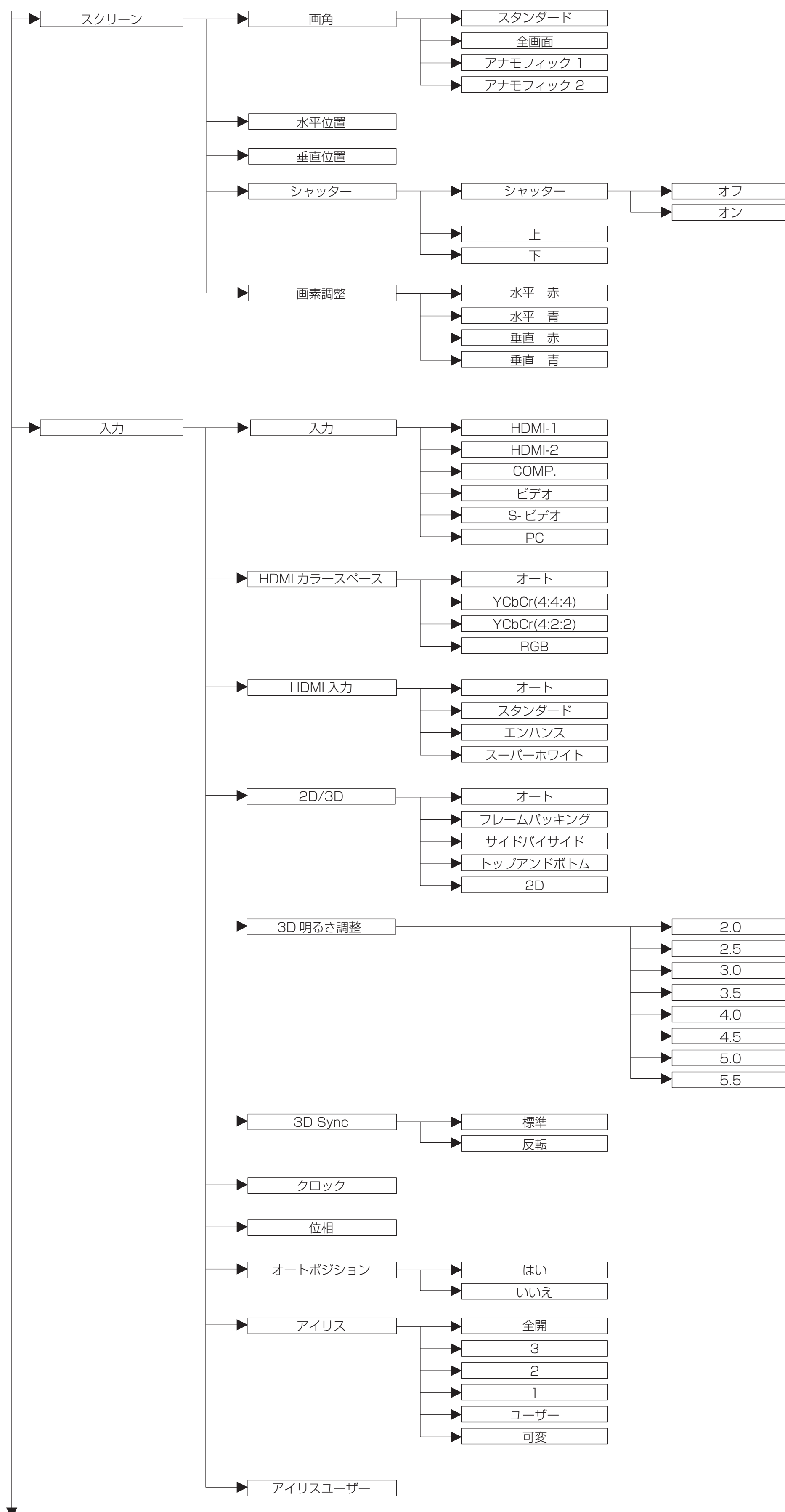


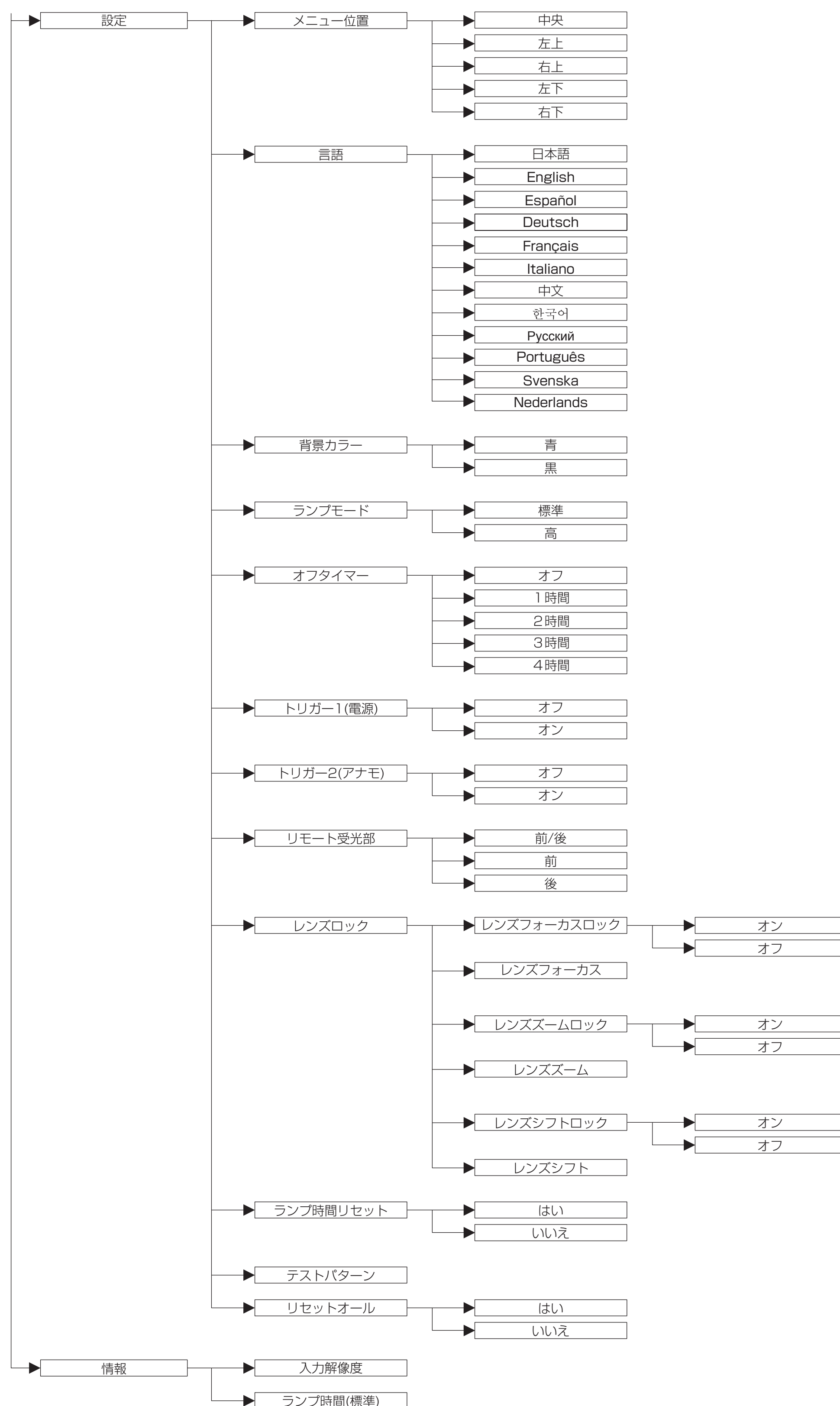


カスタム２
赤
赤明度
赤彩度
赤色相
緑
緑明度
緑彩度
緑色相
青
青明度
青彩度
青色相
シアン
シアン明度
シアン彩度
シアン色相
マゼンタ
マゼンタ明度
マゼンタ彩度
マゼンタ色相
黄
黄明度
黄彩度
黄色相
カスタム３
赤
赤明度
赤彩度
赤色相
緑
緑明度
緑彩度
緑色相
青
青明度
青彩度
青色相
シアン
シアン明度
シアン彩度
シアン色相
マゼンタ
マゼンタ明度
マゼンタ彩度
マゼンタ色相
黄
黄明度
黄彩度
黄色相
LTI
オフ
低
高
CTI
オフ
低
高
オーバースキャン
100%
99%
98%
97%
96%
95%
94%
93%
プロジェクション
プロジェクション アプリケーション
キーストン
位置調整
回転
水平補正
垂直補正
位置調整
左上
右上
左下
右下
リセット左上
リセット右上
リセット左下
リセット右下
◀、▶、▲、▼の各ボタンを使用して、画像の左上角をスクリーンの左上角に合わせます。ENTER を押すと、元に戻ります。
◀、▶、▲、▼の各ボタンを使用して、画像の右上角をスクリーンの右上角に合わせます。ENTER を押すと、元に戻ります。
◀、▶、▲、▼の各ボタンを使用して、画像の左下角をスクリーンの左下角に合わせます。ENTER を押すと、元に戻ります。
◀、▶、▲、▼の各ボタンを使用して、画像の右下角をスクリーンの右下角に合わせます。ENTER を押すと、元に戻ります。
設置位置
フロント投写
天吊 フロント投写
リア投写
天吊 リア投写
曲面補正
回転補正

メニューを使って設定する（つづき）

入力信号や信号フォーマットの種類によって、操作できないまたは表示されないメニューがあります。




設定
メニュー位置
中央
左上
右上
左下
右下
言語
日本語
English
Español
Deutsch
Français
Italiano
中文
한국어
Русский
Português
Svenska
Nederlands
背景カラー
青
黒
ランプモード
標準
高
オフタイマー
オフ
1時間
2時間
3時間
4時間
トリガー1(電源)
オフ
オン
トリガー2(アナモ)
オフ
オン
リモート受光部
前/後
前
後
レンズロック
レンズフォーカスロック
オン
オフ
レンズフォーカス
レンズズームロック
オン
オフ
レンズズーム
レンズシフトロック
オン
オフ
レンズシフト
ランプ時間リセット
はい
いいえ
テストパターン
リセットオール
はい
いいえ
情報
入力解像度
ランプ時間(標準)

メニューを使って設定する（つづき）

メニュー設定のしかた

画面はオフタイマーの設定を例として説明しています。

1 MENU ボタンを押す

● メニュー選択バーが表示されます。



2 ◀、▶ボタンを押して設定メニューを選択する

● ◀、▶ボタンを押すごとに「画質 1」⇔「画質 2」⇔「プロジェクション」⇔「スクリーン」⇔「入力」⇔「設定」⇔「情報」⇔「画質 1」と切り換わります。



3 ENTER ボタン（または▼ボタン）を押す

● 希望のメニューが選べます。



4 ▲、▼ボタンを押してオフタイマーの項目を選択する



5 ◀、▶ボタンを押して希望のオフタイマーを設定する



メニューを消す

6 MENU ボタンを数回押す

● ボタンを押しても、メニュー画面の操作ができないことがあります。この場合、誤動作している可能性があります。このときは、一度電源プラグをコンセントから抜き、10 分以上たってからもう一度電源プラグをコンセントに接続してください。
● ↵マークのついている項目は、選択してから ENTER ボタンを押してください。
● メニュー画面、画面表示など、本書と製品で異なることがあります。
● 設定メニューを変更する場合は、▲ボタンを数回押してメニュー選択バーを選び、2 からの操作を行ってください。

メニューで設定できること

本機では、以下の設定はメニュー画面を表示させて行います。

画質 1 メニュー



設定項目	設定	はたらき
画質モード	シネマ	映画館のような薄暗い照明で映画を見るためのモードです。
	ビデオ	ビデオ画像などに適したスタンダードモードです。
	3D	3D 映画を見るためのモードです。
	ダイナミック	スポーツ画像の観賞に適した明るいモードです。
	ユーザー 1	画質モードの設定を任意に調整し、保存するために使用します（36 ページを参照）。
	ユーザー 2	
	ユーザー 3	
コントラスト	-50 ～ 50	映像のコントラストを調整します（36 ページを参照）。
明るさ	-50 ～ 50	映像の明るさを調整します（36 ページを参照）。
色の濃さ	-50 ～ 50	映像の色の濃さを調整します（36 ページを参照）。
色あい	-50 ～ 50	映像の色あいを調整します（36 ページを参照）。
シャープネス	-50 ～ 50	映像の鮮鋭度を調整します（36 ページを参照）。
ガンマ補正	シネマ	映画などの鑑賞に適した映像の暗部まで明瞭に見るためのモードです。
	2.0	スポーツ画像などの観賞に適した明るいモードです。
	2.1(ビデオ)	ビデオ画像などに適したスタンダードモードです。
	2.2	フィルム素材に適したスタンダードモードです。
	3D	3D 映画を見るための、もっとも明るいモードです。
	ユーザー	ガンマ曲線をカスタマイズするためのモードです。
セットアップレベル	0 IRE	国内盤の LD や DVD の映像を見るときに選択します。
	3.75 IRE/7.5 IRE	米国盤の LD や DVD の映像を見るときに選択します。

設定項目	設定		はたらき
色温度	5800K ～ 9300K		色温度を調整します。 色温度が低いほど赤みがかった白色になり、色温度が高いほど青みがかった白色になります（27 ページを参照）。
	高輝度		輝度を重視したモードです。
	ユーザー	赤明度	赤明度を調整します。
		緑明度	緑明度を調整します。
		青明度	青明度を調整します。
		赤オフセット	赤オフセットを調整します。
		緑オフセット	緑オフセットを調整します。
		青オフセット	青オフセットを調整します
シネマフィルター	映画		グリーン / シアンの色域が拡大されます。
	明るさ重視		フィルター無し
フレームレート コンバージョン	オフ		24P 入力は 4 等倍（96Hz 駆動）でフィルム等倍速となります。 変換による映像のディレイがないので、ゲームをするときに最適なモードです。
	トゥルーフィルム		フィルム特有のカタカタ間を残しながらクッキリ鮮明な映像を映し出します。
	トゥルービデオ		ビデオ映像の動き補間により動画のボケを抑えます。

画質 2 メニュー



設定項目	設定	はたらき
シネマモード	オート	フィルム映像入力したとき、自動的にフィルムモード処理を行います。 通常はオートに設定します。 画面にちらつきが出たり、コマ落ちなどの不自然な動作をしたり、斜め線のガタツキが大きい場合は、ビデオまたはフィルムモードのいずれか適する設定に切り換えてください。
	ビデオ	フィルムモード処理は行いません。
	フィルム	強制的にフィルムモードに設定します。
TNR	オフ	ランダムノイズ低減を行いません（37 ページを参照）。
	低 / 中 / 高	ランダムノイズ低減の強さを調整します（37 ページを参照）。
MNR	オフ	モスキートノイズ低減を行いません（37 ページを参照）。
	低 / 中 / 高	モスキートノイズ低減の強さを調整します（37 ページを参照）。
BAR	オフ	ブロックノイズ低減を行いません（37 ページを参照）。
	オン	ブロックノイズ低減を行います（37 ページを参照）。
細部強調	オフ	映像の細部の強調補正を行いません（37 ページを参照）。
	低 / 中 / 高	映像の細部の強調補正の強さを調整します（37 ページを参照）。

メニューを使って設定する（つづき）

画質 2 メニュー (つづき)

設定項目	設定			はたらき
カラーマネージメント	オフ			カラーマネージメントを行いません。
	カスタム 1 ～ 3	赤	赤明度	赤色の範囲を調整します。
			赤彩度	赤色の飽和度を調整します。
			赤色相	赤色の色合いを調整します。
		緑	緑明度	緑色の範囲を調整します。
			緑彩度	緑色の飽和度を調整します。
			緑色相	緑色の色合いを調整します。
		青	青明度	青色の範囲を調整します。
			青彩度	青色の飽和度を調整します。
			青色相	青色の色合いを調整します。
		シアン	シアン明度	マゼンタの範囲を調整します。
			シアン彩度	マゼンタの飽和度を調整します。
			シアン色相	シアンの色合いを調整します。
		マゼンタ	マゼンタ明度	マゼンタの範囲を調整します。
			マゼンタ彩度	マゼンタの飽和度を調整します。
			マゼンタ色相	マゼンタの色合いを調整します。
		黄	黄明度	黄色の範囲を調整します。
			黄彩度	黄色の飽和度を調整します。
			黄色相	黄色の色合いを調整します。
LTI	オフ			信号の輪廓強調を行ないません。
	低 / 高			信号の輪廓強調補正の強さを調整します。
CTI	オフ			色境界部分の色にじみ改善を行ないません。
	低 / 高			色境界部分の色にじみ改善の強さを調整します。
オーバースキャン	100% ～ 93%			ブルーレイなどの映像を見るときの投写映像の表示領域を調整します。

プロジェクションメニュー



設定項目	設定	はたらき
プロジェクション アプリケーション	キーストン	台形歪みを補正するときに使用します。
	位置調整	位置を調整するときに使用します。
	回転	映像を回転させるときに使用します。
水平 補正	-40 ～ 40	水平方向のキーストンの調整に使用します。
垂直 補正	-30 ～ 30	垂直方向のキーストンの調整に使用します。
位置調整	左上	画面の左下端の位置を調整します。
	右上	画面の右上端の位置を調整します。
	左下	画面の左下端の位置を調整します。
	右下	画面の右下端の位置を調整します。
	リセット左上	左上の設定を初期値に戻します。
	リセット右上	右上の設定を初期値に戻します。
	リセット左下	左下の設定を初期値に戻します。
	リセット右下	右下の設定を初期値に戻します。
設置位置	フロント投写	床置きで正面から投写した映像を見るために使用します。
	天吊　フロント投写	天吊りして正面から投写した映像を見るために使用します。
	リア投写	床置きでクリーンの裏から投写した映像を見るために使用します。
	天吊　リア投写	天吊りしてスクリーンの裏から投写した映像を見るために使用します。
曲面補正	-20 ～ 20	曲面補正を表示します。
回転補正	-180 ～ 180	映像の回転角の調整に使用します。

スクリーンメニュー



設定項目	設定	はたらき
画角	スタンダード	入力信号に合わせて自動的に最適なアスペクト比が選ばれます。
	全画面	画像を全画面（16：9）の画角で表示します
	アナモフィック 1	市販のアナモフィックレンズを使用して 2.35：1 の映像を見る場合に最適なモードです。▲、▼ボタンを使用して表示位置を上下に調整できます。 パソコンからの入力信号には対応していません。
	アナモフィック 2	市販のアナモフィックレンズを装着したまま 16：9、4：3、パソコンからの映像を見る場合に最適なモードです。
水平位置	設定範囲は入力信号に依存します	投写された映像の水平位置の調整に使用します。
垂直位置	設定範囲は入力信号に依存します	投写された映像の垂直位置の調整に使用します。
シャッター	オフ	シャッターをオフにします。
	オン	シャッターをオンにします。
	上	シャッターオン時に画面の上に出す黒帯を調整します。
	下	シャッターオン時に画面の下に出す黒帯を調整します。
画素調整	水平 赤 / 水平 青 / 垂直 赤 / 垂直 青	各色の水平 / 垂直方向のわずかな色ずれを調整します。

メニューを使って設定する（つづき）

入力メニュー



設定項目	設定	はたらき
入力	HDMI-1	入力を HDMI 1 端子に切り換えます。
	HDMI-2	入力を HDMI 2 端子に切り換えます。
	COMP.	入力を COMPONENT 端子に切り換えます。
	ビデオ	入力を VIDEO 端子に切り換えます。
	S- ビデオ	入力を S-VIDEO 端子に切り換えます。
	PC	入力を COMPUTER 端子に切り換えます。
HDMI カラースペース	オート	カラースペースを自動的に最適な値に設定します。
	YCbCr(4:4:4)	プレーヤーの出力が YCbCr(4:4:4) の場合、こちらに合わせます。
	YCbCr(4:2:2)	プレーヤーの出力が YCbCr(4:2:2) の場合、こちらに合わせます。
	RGB	パソコンの DVI 端子や、RGB 出力の機器と接続するときは、こちらに合わせます。
HDMI 入力	オート	HDMI 入力時の信号レベルを自動的に最適な値に設定します。
	スタンダード	DVD プレーヤーなどの映像機器と接続する場合、通常はこちらに合わせます。
	エンハンス	パソコンの DVI 端子と接続するときや、プレーヤー側でエンハンス設定している場合、こちらに合わせます。
	スーパー ホワイト	スタンダードで白つぶれが発生する場合、こちらに合わせます。
2D/3D	オート	入力信号が 3D か 2D かを自動的に判別して表示します。
	フレームパッキング	フレームパッキング方式の 3D 信号を表示する場合、こちらに合わせます。
	サイドバイサイド	サイドバイサイド方式の 3D 信号を表示する場合、こちらに合わせます。
	トップアンドボトム	トップアンドボトム方式の 3D 信号を表示する場合、こちらに合わせます。
	2D	2D 映像を表示する場合、こちらに合わせます。 サイドバイサイド方式やトップアンドボトム方式の 3D 信号の場合、左目、右目用の映像がそれぞれ分かれて画面の左右もしくは上下に表示されれます。
3D 明るさ調整	2.0 ～ 5.5	3D メガネで見るときに、映像の明るさを調整します。
3D Sync	標準	3D 映像表示時、通常はこちらに合わせます。
	反転	3D 映像表示時に左右の映像が反転している場合、こちらに合わせます。
クロック		映像にちらつきやぼけが出たときに、画面を見ながら調整します。（38 ページを参照）
位相		映像に幅広のしま模様が出たときに、画面を見ながら調整します。（38 ページを参照）
オートポジション		表示画面を自動調整するときに、この項目を選択して ENTER を押してください。 確認画面が表示されますので、「はい」を選択すると映像の表示位置や位相を自動調整します。
アイリス	全開	アイリスを全開状態にします。
	3	アイリスを閉じた設定です。映像の黒を暗くしたいときに、合わせます。
	2	映像の黒をより明るくする設定です。
	1	映像の黒をさらに明るくする設定です。
	ユーザー	カスタマイズ設定したアイリスを選択します。
	可変	入力映像の明るさに応じてアイリスが変化します。
アイリス ユーザー	0 ～ 18	アイリスの開閉をカスタマイズ設定します。（アイリスユーザーはアイリス設定でユーザーを選択しているときに調整可能です。）

設定メニュー



設定項目	設定	はたらき
メニュー位置	中央 / 左上 / 右上 / 左下 / 右下	メニューの表示位置を切り換えます。
言語	日本語 / English / Español / Deutsch / Français / Italian / 中文 / 한국어 / Русский / Português / Svenska / Nederlands	メニューで使用する言語の選択に使用します。
背景	青	無信号時の背景色をブルーにします。
	黒	無信号時の背景色をブラックにします。
ランプモード	標準	暗いシアタールームで使用する場合に選択します。動作音が小さくなります。
	高	明るい部屋で使用する場合に選択します。
オフタイマー	オフ	オフタイマーを使用しません。
	１時間	１時間無信号でメニュー操作をしない時、自動で電源が切れます。
	２時間	２時間無信号でメニュー操作をしない時、自動で電源が切れます。
	３時間	３時間無信号でメニュー操作をしない時、自動で電源が切れます。
	４時間	４時間無信号でメニュー操作をしない時、自動で電源が切れます。
トリガー１（電源）	オフ / オン	オン設定の場合、ランプ点灯時に TRIGGER 端子から 12V を出力します。
トリガー２（アナモ）	オフ / オン	オン設定の場合画角を「アナモフィック１」また「アナモフィック２」を設定したときに TRIGGER 端子から 12V が出力されます。
リモート受光部	３種類	リモコン受光部の位置を前か後に限定します。
レンズロック	レンズフォーカスロック	レンズフォーカス調整のロックを解除します。
	レンズフォーカスロック	レンズのフォーカス調整をロックします。
	レンズフォーカス	画面のフォーカスを調整します。ENTER を押すと画面にフォーカス調整ダイアログが表示されますので、▲、▼ボタンで調整してください。（20 ページ参照）
	レンズズームロック	レンズズーム調整のロックを解除します。
	レンズズームロック	レンズのズーム調整をロックします。
	レンズズーム	画面の表示サイズを調整します。ENTER を押すと画面にズーム調整ダイアログが表示されますので▲、▼ボタンで調整してください。（20 ページ参照）
	レンズシフトロック	レンズシフト調整のロックを解除します。
	レンズシフトロック	レンズのシフト調整をロックします。
	レンズシフト	画面の表示位置を調整します。ENTER を押すと画面にレンズシフト調整ダイアログが表示されますので、▲、▼、◀、▶ボタンで調整してください。（20 ページ参照）
ランプ時間リセット	はい / いいえ	ランプの使用時間を０にリセットします。
テストパターン	９種類	投写された画面上にテストパターンを映します。
リセットオール	はい / いいえ	言語とランプ時間リセット以外の、メニューの設定値をすべて工場出荷時の値に戻します。

情報メニュー

設定項目	説明
入力解像度	現在投写されている映像信号の解像度が表示されます。
ランプ時間 (標準)	ランプの使用時間（単位：時間）を表示します。

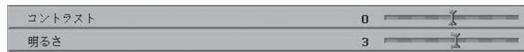
映像を調整する

映像の明るさを調整する（コントラスト、明るさ）

メニューを使って映像の明るさに関する調整をします。

1 画質 1 メニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲ 、▼ ボタンを押して、コントラストまたは明るさを選ぶ。



3 ◀、▶ボタンを押して調整する

コントラスト … ▶ボタンを押すごとに映像が明るくメリハリが出ます。◀ボタンを押すごとに映像が暗くしっとりとします。

明るさ ………… ▶ボタンを押すごとに映像が明るくなります。◀ボタンを押すごとに映像が暗くなります。

白の色合いを調整する（色温度の詳細設定）

メニューを使って色温度（白の色あい）に関する調整をします。

1 画質 1 メニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲ 、▼ボタンを押して「色温度」を選ぶ

3 ◀ 、▶ボタンを押して「ユーザー」を選ぶ

4 ENTER ボタンを押す

5 ▲ 、▼ボタンを押して赤明度を選ぶ



6 ◀、▶ボタンを押して調整する

7 最適の調整結果を得るために、操作 5、6 を繰り返して調整する

色温度について

同じ白色といっても、いろいろの程度があります。白さの程度を表す方法のひとつに色温度があります。色温度の低い白色は赤みがかった白色となり、色温度の高い白色は青みがかった白色となります。たとえば、下記のように設定することで色温度を設定することが可能です。
色温度の上げ方：青明度を上げる、もしくは赤明度を下げます。
色温度の下げ方：青明度または緑明度を下げる、もしくは赤明度を上げます。

色を調整する（色の濃さ、色あい）

メニューを使って映像の色に関する調整をします。

1 画質 1 メニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲ 、▼ ボタンを押して「色の濃さ」または「色あい」を選ぶ



3 ◀、▶ボタンを押して調整する

色の濃さ ……… ▶ボタンを押すごとに色が濃くなります。◀ボタンを押すごとに色が薄くなります。

色あい ………… ▶ボタンを押すごとに肌色が緑がかります。◀ボタンを押すごとに肌色が紫がかります。

映像をくっきりさせたり、ソフトにする（シャープネス）

メニューを使って映像の鮮鋭度に関する調整をします。
に関する調整をします。

1 画質 1 メニューを表示させる。（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲ 、▼ ボタンを押して「シャープネス」を選ぶ



3 ◀、▶ボタンを押して調整する。

● 信号の種類によって選択できないことがあります。

映像を光学的に明るくさせたり、暗くする（アイリス）

アイリスとは、ランプの絞りを開閉することによって、光学的にコントラストを調整する機能です。本機はアイリスに関して以下の 6 つのモードを用意しています。

全開：アイリスを全開の状態に固定します。
3：このモードでは、他のモードよりも黒が鮮明になります。
2：このモードではモード 3 より明るくなります。
1：このモードでは、モード 2 とモード 3 よりも明るくなります。
ユーザー：ユーザーが好きな明るさレベルにカスタマイズできます。
可変：暗い映像のときに、アイリスを段階的に調整します。

明るさの変化の割合を調整する（ガンマモードの詳細設定）

メニューを使ってガンマ補正に関する調整をします。

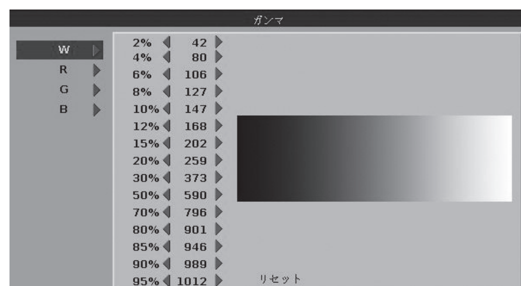
1 画質 1 メニューを表示させる（メニュー設定のしかたは 30 ページ参照）

2 ▲、▼ ボタンを押して「ガンマ補正」を選ぶ

3 ◀、▶ ボタンを押して「ユーザー」を選ぶ

4 ENTER ボタンを押す

5 ▲、▼ ボタンを押して設定したい色（W、R、G、B）を選択する



6 ENTER ボタンを押す

7 ▲、▼ ボタンを押して設定したい項目を選ぶ

8 ◀、▶ ボタンを押してガンマの値を設定する

9 操作 4 ～ 9 を繰り返して設定する

ノイズを減少させる（ノイズリダクション）

本機には以下の 3 つのノイズリダクション機能があります。

TNR（テンポラル・ノイズ・リダクション：時間軸系ノイズリダクション）
映像にチラチラと現れるランダムノイズを低減させます。

MNR（モスキート・ノイズ・リダクション）
DVD プレーヤーなどの映像の輪郭部分に発生するモスキートノイズを低減させます。

BAR（ブロック・アーティファクト・リムーバル）
DVD プレーヤーなどの映像の輪郭部分に発生するブロックノイズを低減させます。

- 720p、1080i、1080p およびコンピューターからの信号には対応していません。

コンピューター映像の調整

本機は、コンピューターからの映像の信号に合わせて自動的に適切な信号形式に設定しますが、コンピューターの種類によっては、正しく投写できない場合があります。そのときは、入力メニューのオートポジションを実施してください（34 ページ参照）。それでも正しく投写されないときは、メニュー画面を使って投写されるコンピューター映像を調整してください。

メニュー画面を使ったコンピューター映像の調整のしかた

次のような症状のときは、以下のように調整してください。

- **幅広のしま模様が出る**
  入力メニューのクロックを調整します。
- **投写画面がちらつく**
  入力メニューの位相を調整します。
- **投写画面がぼやける**
  入力メニューの位相を調整します。
- **投写画面が左右にずれる**
  スクリーンメニューの水平位置を調整します。
  ▶ボタンを押すごとに映像が右にずれます。◀ボタンを押すごとに映像が左にずれます。設定範囲は入力信号によって変化します。
- **投写画面が上下にずれる**
  スクリーンメニューの垂直位置を調整します。▶ボタンを押すごとに映像が上にずれます。◀ボタンを押すごとに映像が下にずれます。設定範囲は入力信号によって変化します。
- **画面の上下にノイズなどが出る**
  スクリーンメニューのシャッター（上）またはシャッター（下）を調整します。

簡単な画面位置調整のしかた（オートポジションで調整できない場合）

水平位置の調整

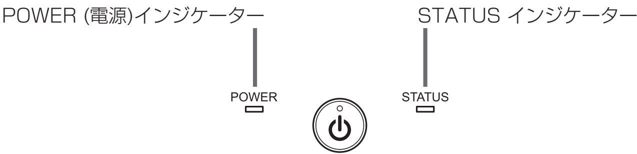
1 水平位置を調整して、映像の左端を合わせ、クロックを調整して右端を合わせる。
2 操作 1 を繰り返し、水平位置の調整を行う

垂直位置の調整

3 垂直位置を調整して、映像の上端を合わせる。

インジケーターの見かた

本機には、内部の状態を知らせるインジケーターが 2 つあります。インジケーターの点灯のしかたで、どのような状態かを知ることができます。次のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、三菱電機修理窓口・ご相談センターにご連絡ください。



正常時

POWER	STATUS	状態	備考
赤点灯	消灯	電源スタンバイ状態	
赤点滅		電源オフのためのランプスタンバイ	電源「入」の操作はできません。
緑点灯	緑点滅	ランプスタンバイ状態	電源「切」の操作はできません。
	緑点灯	電源「入」(通常時)	

異常時

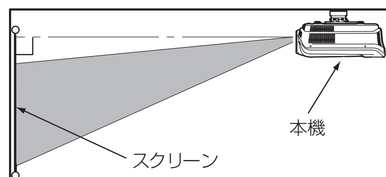
POWER	STATUS	状態	処置
赤点灯	橙点滅	故障 1	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または三菱電機修理窓口・ご相談窓口にご相談ください。
赤点灯	橙 / 赤点滅	故障 2	
赤点灯	赤点滅	故障 3	
赤点灯	橙 / 緑点滅	ランプカバーが開いている 本機内部が高温になっている • 吸気口または排気口をふさいでいる。 • 暖房の吹出し口など高温になる場所で使用している。	ランプカバーを閉じる。 → ふさいでいる物をとる。 → 設置場所を変える。
赤点灯	緑点滅	ファンの異常 電源基板の異常	主電源スイッチを「切」にしてから、再度「入」にしてください。 上記の方法で解決できない場合には、お買い上げの販売店または三菱電機修理窓口、ご相談窓口にご相談ください。
緑点灯	橙点灯	ランプ交換表示（通算約 3800 時間※1）	光源ランプを交換してください。光源ランプの購入は、お買い上げの販売店または三菱電機修理窓口にご依頼ください。
緑点灯	赤点灯	ランプ交換表示（通算約 4000 時間※1 ※2）	

※1 :ランプモードを「標準」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は短くなります）
※2 :ランプモードを「標準」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は約2000 時間）

設置工事を依頼するときは

天吊りして正面から映像を見る場合

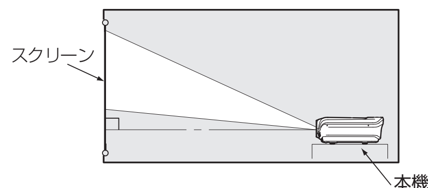
天吊りにする場合は、別売の天井用取付金具（高天井用ポール、天井用取付金具ベースなど：専用品）（49 ページ参照）を使用してください。また、設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは販売店にご相談ください。



- 当社製以外の天吊り金具ならびに天吊り金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても当社は責任を負いかねますのでご注意ください。
- 天吊りの場合、プロジェクションメニューの設置位置を「天吊 フロント投写」にしてください。くわしくは 33 ページをごらんください。
- ブレーカーなどを設置するよう、工事業者に依頼してください。ご使用にならないときは、必ずブレーカーなどで主電源をおとしておいてください。
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所に設置しないでください。故障の原因になることがあります。
- 本体の排気口から温風が出ますので、火災報知器の近くに設置しないでください。
- 天吊り時など、本機を高い位置に設置する場合は、落下の危険があるので、レンズキャップを使用しないでください。

半透過性のスクリーンに投写し、裏側から映像を見る場合

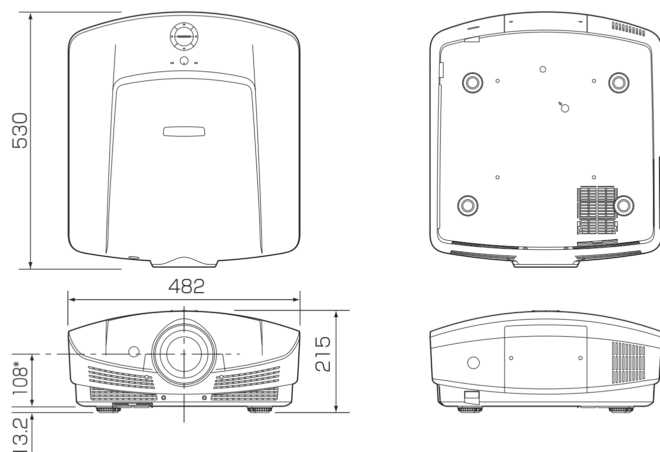
設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは販売店にご相談ください。



- 裏側から映像を見る場合、プロジェクションメニューの設置位置を「リア投写」にしてください。くわしくは 33 ページをごらんください。

寸法図（参考）

単位は mm



＊レンズ中心位置の寸法は、出荷時の値です。

お掃除のしかた

お手入れをする前には必ず主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



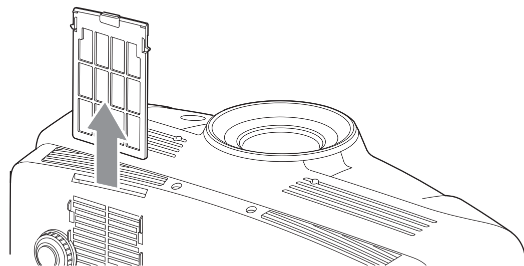
- フィルターを掃除する場合、可燃性のエアークリーナーなどは絶対に使用しないでください。ランプ点灯の際、可燃成分に引火し、火災や故障の原因となることがあります。
- 本体やレンズを掃除する場合、可燃性の溶液（ベンジンやシンナーなど）やスプレーを使用しないでください。

フィルターの掃除のしかた

フィルターのお手入れはこまめにおこなってください（1か月に一度程度)。吸気口にあるフィルターにほこりがたまると本体内部の温度が異常に高くなり、内部部品を傷めたり、パネルの寿命に影響を与えるなどして、故障の原因となることがあります。

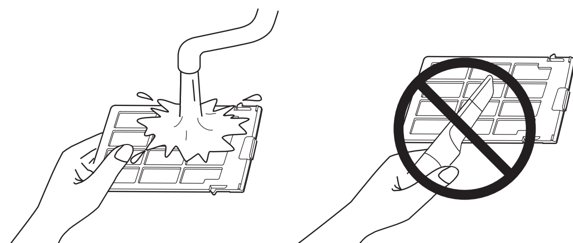
- **本体内部の温度が異常に高くなると、STATUS インジケーターが 橙 / 緑で点滅し、電源が切れて光源ランプが消灯します。**

1 フィルターを取り外す



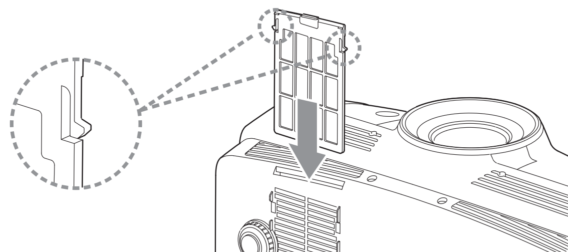
2 フィルターを洗浄するか、または新しいフィルターと交換する

- フィルターの洗浄には、水または薄めた中性洗剤を使ってください。
- フィルターは完全にすすぎ、陰干しし、充分に乾燥させてください。
- フィルターを掃除機やエアーダスターなどで掃除しないでください。
  フィルターは柔らかいので、破損することがあります。



3 フィルターを装着する

- 左右の爪が本体にロックされていることをチェックしてください。



⚠注意

- フィルターは必ず取付けてご使用ください。フィルターを取付けずに使用すると内部にほこりや異物が入り、火災、故障の原因となることがあります。

本体をきれいにする

柔らかい布で軽く汚れをふき取る

- 汚れがひどいときは水にうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼって拭いて、乾いた布で仕上げてください。
- 殺虫剤をかけたり、ベンジンやシンナーなどで拭いたり、ワックスをかけたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させると、変質したり、塗料がはげる原因となります。また、ワックスをかけると、ワックスの成分が製品内部のレンズに付着し、レンズがくもる原因となることがあります。

レンズをきれいにする

市販のレンズ手入れ用品（ブローワーブラシなど）でほこりや汚れを取る

- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

光源ランプを交換する

本機には、液晶パネルの映像を投写するために光源ランプが内蔵されています。
本光源ランプは消耗部品であり、使用中に切れたり、輝度が低下する場合があります。このような場合、早めに新しい光源ランプと交換してください。光源ランプは、必ず別売の LVP-HC9000D/LVP-HC9000DW 専用の光源ランプをご使用ください。光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機修理窓口・ご相談窓口にご依頼ください。

LVP-HC9000D/LVP-HC9000DW 用
光源ランプ
形名：VLT-HC9000LP

⚠ 警告

- 光源ランプを交換する前に、必ず主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。主電源スイッチを切らずに交換を行うと、感電の原因となることがあります。
- 光源ランプの固定ネジを本機内部に落とさないようにしてください。また、本機内部に金属片や燃えやすいものなどを入れないでください。内部に異物が入ったまま使うと感電や火災の原因となります。入ったものがとれないときは、異物の回収を三菱電機修理窓口にご依頼ください。
- 光源ランプは確実に取り付けてください。取り付けが不十分な場合、光源ランプは点灯しません。また、火災の原因にもなります。
- 取り出した光源ランプは決して振ったり目の上より高い位置にもっていかないでください。ガラス片が飛び散ったり落下して目に入るなどのけがの恐れがあります。
- 使用した直後、ランプカバーは高温になっていますので光源ランプの交換はしないでください。やけどなどの原因となります。電源ボタンで電源を切り、光源ランプ消灯後、冷却のための吸、排気ファンが止まるまで約 2 分間お待ちください。そして主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、1 時間以上たって充分に冷えてから交換を始めてください。
- 高圧水銀ランプが破裂した場合、本体内部にガラス片が散乱している可能性があります。清掃やランプ交換をお客様ご自身でなされる場合、光源ランプの取っ手を持って行ってください。ガラス片でけがの恐れがあります。三菱電機修理窓口に光源ランプの交換と内部の点検を依頼することをおすすめします。
- ランプ交換を天吊り状態の高い位置で行う場合は、三菱電機修理窓口にご依頼ください。

⚠ 注意

光源ランプの使用可能時間は約4000時間※1※2ですが、使用条件によっては4000時間に満たないで使用できなくなることがあります。ランプの使用時間が3800時間※1※2を超えるとSTATUSインジケーターが 橙点灯し、画面上にメッセージ（ランプ交換）が表示されます。MENUボタンを押すとメッセージは消えますが、光源ランプを交換して使用時間をリセットするまでSTATUSインジケーターがそのまま橙点灯しています。
ランプの使用時間が4000時間※1※2を越えるとSTATUSインジケーターが赤点灯し、10分後に自動でランプが消灯します。光源ランプを交換して使用時間をリセットするまで解除されません。

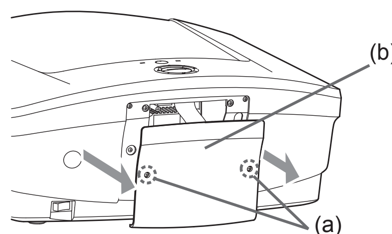
- 光源ランプは、交換以外の目的では取出さないでください。故障の原因となることがあります。
- 本機の光源には、内部圧力の高い水銀ランプが使われています。高圧水銀ランプは、衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりする特性があります。また、高圧水銀ランプの破裂や不点灯に至るまでの時間は、高圧水銀ランプの個体差や使用条件によって大きな差があり、使用開始後すぐに破裂することがあります。
- 交換時期を超えてお使いになると破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換の指示が出た場合、光源ランプが正常に点灯している状態でも速やかに新しい光源ランプと交換してください。
- 高圧水銀ランプが破裂したとき、ランプボックス部の中や外にガラスの破片が飛び散ったり、光源ランプ内部のガスが本体の排気口から出たりすることがあります（白いガス）。高圧水銀ランプ内部のガスには水銀が含まれています。吸い込んだり、目に入ったり、口に入ったりしないようご注意ください。万一、吸い込んだり、目に入ったり、口に入った場合には、速やかに医師にご相談ください。
- 使用済みのランプは、自治体で定められた条例、もしくは規則に従って廃棄してください。
- 光源ランプは専用の VLT-HC9000LP をご使用ください。他のランプを使用されると故障の原因となることがあります。

※1：ランプモードを「標準」にした場合の時間（「高」にした場合の時間は短くなります）。
※2：ランプモードを「標準」にした場合の時間（「高」にした場合の時間は 2000 時間）。

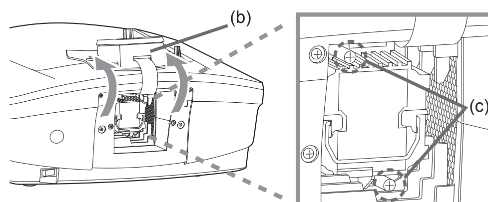
床置き時のランプ交換のしかた

1 主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く

2 ランプカバー固定ネジ 2 本(a)をプラスドライバーを使用してゆるめ、ランプカバー (b) を本体から取り外す

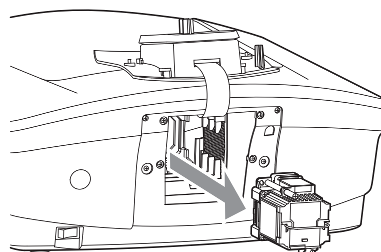


3 固定ネジ2本（c）をプラスドライバーでゆるめる



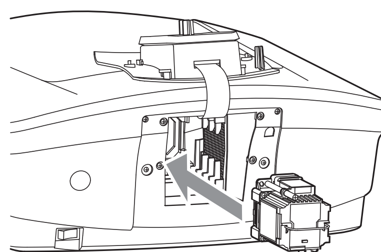
4 取っ手を引きあげる

5 取っ手を持って、ランプを本体から引き出す



- ランプボックスを本体から抜き出す際は、ゆっくりと行ってください。電球部が破裂している場合は急に引き出しますとガラス片が飛び散るおそれがあります。
- 取り出した光源ランプに水などをかけたり、お子さまの手の届くところや燃えやすい物の近くに置かないでください。やけどやけがの原因となります。

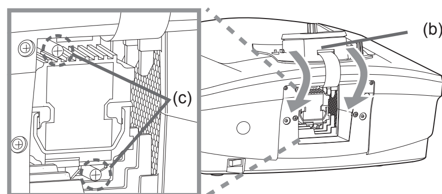
6 新しいランプの取っ手を持って、本体の穴の形状にランプ形状の方向を合わせて、ランプを奥にあたるまで差し込む



7 取っ手を収納部に押し込む

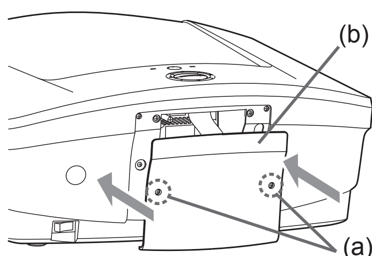
● 取っ手が確実にロックされていることを確認してください。

8 固定ネジ 2 本（c）をプラスドライバーでしっかりと締める



● ネジが確実に締められることを確認してください。

9 ランプカバー（b）を本体に差し込み、ランプカバー固定ネジ 2 本(a)をプラスドライバーでしっかりと締める



● ネジが確実に締められることを確認してください。

ランプ使用時間をリセットする

10 電源プラグをコンセントに差し込み、主電源スイッチを入れる

11 設定メニューを表示させる（メニューの設定のしかたは 30 ページ参照）

12 ▼ボタンを押して「ランプ時間リセット」を選択する

13 ENTER ボタンを押して「確定」を表示させる

14「はい」を選択する

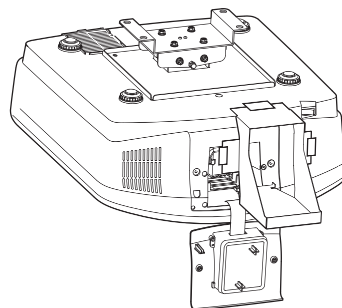
天吊り時のランプ交換のしかた

天吊りしているプロジェクターからランプを取り外す時は、ガラスの破片等から身を守るため、プロジェクターに付属のランプ交換用トレーをお使いください。

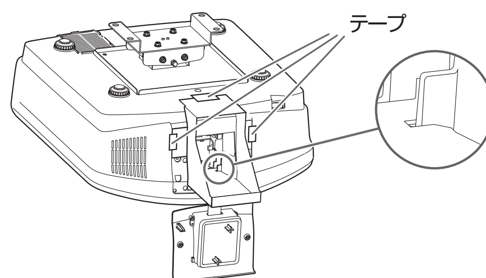
● ランプ交換用トレーの組立てかたについては、トレーに付属の説明書をお読みください。

1「床置き時のランプ交換のしかた」の操作 1 ～ 4 を実行する

2 ランプ交換用トレーをプロジェクターに取り付ける



3 ランプ交換用トレーを、トレーに付属のテープを使ってプロジェクターに固定する

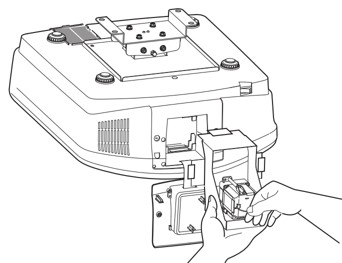


4 取っ手を持って、ランプを本体から引き出す

● ランプボックスを取り出す際にガラスの破片等がこぼれないように、ランプ交換用トレーを固定してください。

● ランプの落下の恐れがあるので、ランプをランプ交換用トレーの上に直接載せないでください。

5 ランプ交換用トレーと一緒にランプを取り出す



6「床置き時のランプ交換のしかた」の操作 6 ～14 を実行する

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に、次のことをお調べになってください。それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機修理窓口・ご相談窓口にご連絡ください。

映像が映らない

現象	確認／処置
電源が入らない	● インジケーターの点灯のしかたを確認する。 <table><tr><th>POWER</th><th>STATUS</th><th>処置</th></tr><tr><td>消灯</td><td>消灯</td><td>● 電源コードを本機に接続する。 ● 電源プラグをコンセントに接続する。 ● 主電源スイッチを入れる。</td></tr><tr><td>赤点灯</td><td>橙 / 緑点滅</td><td>● 吸気口、排気口をふさいでいる物があれば取り除き、以下の操作を行ってください。 1. 主電源スイッチを切る。 2. 本体が冷めているのを確認する。 3. 主電源スイッチを入れる。 4. 電源ボタンを押す。 ● 暖房の吹き出しが、排気口にかからないようにする。 ● フィルターが汚れていないか確認する。 → フィルターの手入れをする。 ● ランプカバーを取り付ける。</td></tr></table>
映像が映らない	● レンズキャップをはずす。 ● 電源を入れてから映像が表示されるまで約 1 分かかります。 ● まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってからもう一度点灯させてください。 ● 吸気口が汚れていないか確認してください。 ● ランプカバーが閉まっているか確認してください（43 ページ参照）。 ● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認してください。 ● 延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることを確認してください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルと RGB 信号増幅器を合わせて使用してください。 ● 分配器や AV アンプを使って HDMI ケーブルで接続している場合は、分配器や AV アンプが HDMI 1.3 DeepColor 規格に対応しているか確認してください。 ● 接続している映像機器の取扱説明書の接続方法を確認してください。
電源が切れる	● 吸気口、排気口がふさがれているときになることがあります。 （このとき STATUS インジケーターは橙 / 緑点滅しています） → 吸気口、排気口をふさいでいる物を取り除いてから以下の操作を行う。 1.　吸、排気ファンが止まるまで待つ（STATUS インジケーターが消灯するまで待つ）。 2.　主電源スイッチを切る。 3.　10 分以上待つ。 4.　主電源スイッチを入れる。 5.　電源ボタンを入れる。 ● STATUS インジケーターが赤点灯しているときは、ランプ交換の表示です。光源ランプを交換してください。 ● オフタイマーが設定されていませんか。 ● ランプが劣化した場合、点灯後しばらくしてから消灯することがあります。

映像がおかしい

現象	確認／処置
「入力信号がありません」が表示される	● 接続した機器の電源を入れる。または、接続した機器が故障していないか確認する。 ● 外部機器の信号が出力されているか確認する。（特にノートタイプのコンピューターの場合） ● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。 ● 外部機器と接続している端子が正しい端子に接続されているか確認する。 ● 接続した機器の入力が正しく選ばれているか確認する。 ● RGB 接続時に延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることを確認してください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルと RGB 信号増幅器を合わせて使用してください。
HDMI 接続で映像にノイズが入る HDMI 接続で「入力信号がありません」が表示される	● 接続しているケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● 1080p の信号を表示する場合、1080p 信号に対応したハイスピード HDMI ケーブルを使っているか確認してください。 ● 分配器や AV アンプを使って HDMI ケーブルで接続している場合は、分配器や AV アンプが HDMI 1.3 Deep Color 規格に対応しているか確認してください。
映像がゆれる 画面位置がおかしい	● 外部機器と接続しているケーブルが断線しかかっていないか確認する。 ● 外部器と接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● コンピューターの種類によっては、まれに規格外の信号が出力される場合があるのでメニューで調整する（38 ページ参照）。
映像がひずむ	● 本機と投写面が直角になるように調整する（11、13 ページ参照）。
映像が暗い	● 画質 1 メニューの明るさとコントラストの調整をする（36 ページ参照）。 ● ランプを交換する（42 ページ参照）。
映像がぼやける	● フォーカスを合わせる。（17、20 ページ参照） ● レンズをきれいに拭く。(41 ページ参照) ● 画質 1 メニューの明るさとコントラストの調整をする（36 ページ参照）。 ● 本機と投写面が直角になるように調整する（11、13 ページ参照）。
画面が焼き付く （残像がある）	● 均一な明るい画面を表示し続けることにより緩和されます。（ゲーム画面などの静止画を長時間投写し続けると、画面の痕跡が残る「焼き付け現象」が発生する場合があります。）
映像に赤、青、緑などの光る点が見える 映像に黒い点が見える	● プロジェクター特有の現象です。故障ではありません。 （一部、常時点灯または常時不点灯の画素が存在する場合がありますが、故障ではありません。99.99% は有効な画素数です。）
映像に細かい縞模様が見える	● スクリーンとの干渉によるもので、故障ではありません。スクリーンを交換するか本機のフォーカスを少しずらしてみてください。
映像が乱れる	● 外部機器との接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● 妨害電波を発信している機器から遠ざける。
色合いがおかしい	● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
色合いが異なる	● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
映像が静止画像から切換わらない	● ビデオと接続しているとき、早送り再生中に映像が静止画像から切換わらなくなることがありますが、故障ではありません。
映像の周囲にノイズが見える	● DVD等の映像によっては、記録されている映像の周囲にノイズがある場合があります。その場合は、画質2メニューのオーバースキャンの設定値を下げてください。(32ページ参照)。

故障かなと思ったら（つづき）

その他

現象	確認／処置
AV アンプに接続されたスピーカーから音声が出ない（ホームシアター・システム上のスピーカーから音声が出ない）	● 本機はスピーカーを搭載していません。 AV アンプが本機の情報を読み取って DVD プレーヤーに伝えているため、DVD プレーヤーが音声出力を停止しているか、AV アンプが DVD プレーヤーからの音声出力を停止している可能性があります。 → DVD プレーヤーまたは AV アンプ側の設定を変更してください。
排気口から温風が出る	● 本機内部を冷却して出てくる温風です。熱く感じることがありますが故障ではありません。
メニュー設定ができない	● ノイズなどの影響で、本機内部のマイコンが誤動作していることがあります。 → 一度主電源スイッチを切り、10 分以上たってからもう一度主電源スイッチを入れる。
リモコンが効かない・効きにくい	● 電池が消耗していないか確認する。 ● リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの光が直接当たっていないか確認する（10 ページ参照）。 ● リモコンの操作範囲から外れていないか確認する（10 ページ参照）。
機械的な動作音（カシャカシャした音など）がする	● アイリス（絞り）が動いている音です。故障ではありません。
3D 映像にならない。 ※ 3D エミッターと 3D メガネはオプション品です。製品には同梱されていません。	● 3D モードに切り換わっていますか。 → 3D モードに切り換えてください。 ● 3D エミッターと 3D メガネの交信範囲に障害物がありませんか。または、3D メガネの赤外線受光部にシールなどを貼り付けていませんか。 → 3D メガネは 3D エミッターからの信号を受信して動作します。3D エミッターと 3D メガネの交信範囲に障害物がないか、確認してください。 ● 3D エミッターと 3D メガネの距離が離れすぎていませんか、または近すぎませんか。 → 3D エミッターの設置位置を調整してください。 ● 3D エミッターの向きと 3D メガネの赤外線受光部の向きがずれていませんか。 → 3D エミッターの向き及び設置位置を調整してください。 ● 3D メガネの電源が切れていませんか。 → 3D メガネの電源ボタンを押して 3D メガネの電源を入れてください。 ● 3D 映像対応レコーダー / プレーヤーからの 3D 映像を映す場合、レコーダー / プレーヤー側の 3D モード（「3D 設定方式」など）の切り換えが必要なことがあります。（くわしくは、レコーダー / プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。） ● 映像と本機の 3D モードの設定が合っていますか。 →映像と本機の 3D モード（フレームパッキング、サイドバイサイド、トップアンドボトム）の設定を合わせてください。 ● 3D エミッターをプロジェクターに接続していますか。 ● 蛍光灯の照明で３Ｄメガネの同期がはずれる場合があります。蛍光灯の照明を消してみてください。 ● 近くに他の 3D エミッター又は 3D 映像対応機器はありませんか。 → 3D メガネは 3D エミッターからの信号を受信して動作します。他の赤外線発光部からの信号と干渉していないか、確認してください。
3D メガネの電源が勝手に切れる。 ※ 3D メガネはオプション品です。製品には同梱されていません。	● 3D エミッターと 3D メガネの交信範囲に障害物がありませんか。または、3D メガネの赤外線受光部にシールなどを貼り付けていませんか。 → 3D エミッターからの信号が途切れると、約 5 分後に自動的に 3D メガネの電源が切れます。3D エミッターと 3D メガネの交信範囲に障害物がないか、確認してください。
3D 映像がおかしい。 ※ 3D エミッターと 3D メガネはオプション品です。製品には同梱されていません。	● 3D 映像の状態によっては、3D 映像を見ると違和感を感じることがあります。 →「3D Sync」の設定を切り換えて違和感がなくなるか確認してください。 → 3D エミッターからの信号が途切れると、約 5 分後に自動的に 3D メガネの電源が切れます。3D エミッターと 3D メガネの交信範囲に障害物がないか、確認してください。 ● 蛍光灯の照明で３Ｄメガネの同期がはずれる場合があります。蛍光灯の照明を消してみてください。 ● 近くに他の 3D エミッター又は 3D 映像対応機器はありませんか。 → 3D メガネは 3D エミッターからの信号を受信して動作します。他の赤外線発光部からの信号と干渉していないか、確認してください。

現象	確認／処置
3D メガネの電源を入れたときに、電源インジケーターが 5 回点滅する。 ※ 3D メガネはオプション品です。製品には同梱されていません。	● 3D メガネの電池が消耗しています。 → 3D メガネの電池を交換してください。
3D メガネの電源ボタンを押しても 3D メガネのインジケーターが点灯しない。 ※ 3D メガネはオプション品です。製品には同梱されていません。	● 3D メガネの電池が消耗していませんか。 →電源ボタンを押してもインジケーターが点灯しない場合は、3D メガネの電池を交換してください。

ランプ交換のあとで、以下の症状が出たときは、まず、次のことをお調べください。

現象	確認／処置
電源が入らない	● ランプカバーをきちんと取り付ける。 ● ランプ使用時間をリセットする（43 ページ参照）。
STATUS インジケーターが点滅する	● ランプ使用時間をリセットする（43 ページ参照）。

索引

端子について

SERIAL 端子（9 ピン）

PIN No.	名　称	I/O
1	GND	–
2	RXD	IN
3	TXD	OUT
4	GND	–
5	GND	–
6	GND	–
7	–	–
8	–	–
9	GND	–

COMPUTER IN 端子（ミニ D-Sub 15 ピン）

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	R(RED)/P_R/C_R	9	5V
2	G(GREEN)/Y	10	GND
3	B(BLUE)/P_B/C_B	11	–
4	–	12	–
5	GND	13	HS
6	GND	14	VS
7	GND	15	–
8	GND		

HDMI IN 端子

PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様	PIN No.	仕 様
1	TMDS Data2+	8	TMDS Data0 Shield	15	SCL
2	TMDS Data2 Shield	9	TMDS Data0-	16	SDA
3	TMDS Data2-	10	TMDS Clock+	17	DDC Ground
4	TMDS Data1+	11	TMDS Clock Shield	18	+5 V Power
5	TMDS Data1 Shield	12	TMDS Clock -	19	Hot Plug Detect
6	TMDS Data1-	13	CEC		
7	TMDS Data0+	14	–		

仕様

仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。予めご了承ください。

形名		LVP-HC9000D/LVP-HC9000DW
表示素子	サイズ	0.61 形 “SXRD” パネル×３（枚）（R、G、B）、アスペクト比 16：9
	画素数	2,073,600 画素（1920 × 1080）×3 枚　総画素数：6,220,800 画素
投写レンズ		F3.2 ～ F3.9　f=21.4 ～ 38.5mm
光源		高圧水銀ランプ 230W
画面サイズ（投写距離）		最小 50 形～最大 200 形（投写距離 1.7m ～ 12.6m、16:9 投写の場合）
表示可能解像度	コンピューター信号入力時	最大入力解像度：1920 × 1200 ドット パネル表示解像度：1920 × 1080 ドット
	ビデオ信号入力時	表示可能信号：NTSC、PAL、SECAM、4.43NTSC、PAL-M、PAL-N
	コンポーネントビデオ信号入力時	表示可能信号：480i、480p、576i、576p、720p、1080i、1080p パネル表示解像度：1920 × 1080 ドット
コンピュータ入力	映像入力	「信号タイプ」　「端子タイプ」　「ライン」 アナログ RGB　ミニ D － SUB15 ピン　1
ビデオ入力	映像入力	「信号タイプ」　「端子タイプ」　「ライン」 HDMI　HDMI　2 ビデオ入力　RCA　1 S －ビデオ入力　S　1 コンポーネントビデオ入力　RCA × 3(YC_BC_R/YP_BP_R)　1
制御端子 / その他	SERIAL	D-SUB9 ピン（RS-232C）
	TRIGGER1/2	DC 12V、最大 200mA（ミニジャック）
使用温度（使用湿度）		使用温度範囲：5 ～ 35° C（使用湿度範囲：30 ～ 90%）
電源		AC100V　50/60Hz
消費電力		4.0A（360W）
外形寸法		W（幅）482mm × H（高さ）215mm × D（奥行き）530mm ※ 本体突起部含まず
質量		14.5kg
その他	S －ビデオ入力	Y：1.0Vp-p　75 Ω (同期負極性) C：0.286Vp-p　75 Ω (バースト信号)
	ビデオ入力	1.0Vp-p　75 Ω
	コンポーネントビデオ入力	YC_BC_R/YP_BP_R Y：1.0Vp-p　75 Ω C_BC_R/P_BP_R：0．7Vp-p　75Ω
	コンピュータ入力	RGB：0.7 Vp-p　75 Ω HD：TTL レベル（負または正極性） VD：TTL レベル（負または正極性）
	デジタル入力（HDMI）	HDMI　インターフェース（TMDS　シングルリンク）

「JIS C 61000-3-2 適合品」
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

別売品

3D メガネ	（形名：EY-3DGLLC1-PJ[※1]）
3D エミッター	（形名：EY-3D-EMT1[※1]）
光源ランプ	（形名：VLT-HC9000LP）
高天井用ポール	（形名：BR-1P）
天井用取付金具ベース	（形名：BR-2/BR2W（白色）[※2]）
天井用取付アダプター	（形名：BR-HC9000S/BR-HC9000SW（白色）[※2]）

※ 1：本機で 3D 映像を楽しむには、EY-3DGLLC1-PJ と EY-3D-EMT1 が必要です。
※ 2：BR-2/BR-2W（白色）、BR-HC9000S/BR-HC9000SW はセットでご使用ください。単独では天井へ取り付けられません。

仕様（つづき）

接続できる信号の種類

HDMI

信号モード	解像度(H x V)	水平方向の周波数 (kHz)	垂直方向の周波数 (Hz)	通常モード (H x V)*1
480i 60.00Hz(ダブル レート)	-	15.75	60.00	1440x1080
480i 59.94Hz(ダブル レート)	-	15.73	59.94	1440x1080
576i 50.00Hz(ダブル レート)	-	15.63	50.00	1440x1080
480p 60.00Hz	-	31.50	60.00	1440x1080
480p 59.94Hz	-	31.47	59.94	1440x1080
576p 50.00Hz	-	31.25	50.00	1440x1080
720p 60.00Hz	-	45.00	60.00	1920x1080
720p 59.94Hz	-	44.96	59.94	1920x1080
720p 50.00Hz	-	37.50	50.00	1920x1080
1080i 60.00Hz	-	33.75	60.00	1920x1080
1080i 59.94Hz	-	33.72	59.94	1920x1080
1080i 50.00Hz	-	28.13	50.00	1920x1080
1080p 60.00Hz	-	67.50	60.00	1920x1080
1080p 59.94Hz	-	67.43	59.94	1920x1080
1080p 50.00Hz	-	56.25	50.00	1920x1080
1080p 24.00Hz	-	27.00	24.00	1920x1080
1080p 23.98Hz	-	26.97	23.98	1920x1080
VGA 60.00Hz	640x480	31.50	60.00	1440x1080
VGA 59.94Hz	640x480	31.47	59.94	1440x1080
SVGA 60Hz	800x600	37.88	60.00	1440x1080
XGA/60Hz	1024x768	48.36	60.00	1440x1080
WXGA 60Hz	1280x768	47.76	60.00	1800x1080
WXGA+ 60Hz	1440x900	55.92	60.00	1728x1080
SXGA+ 60	1400x1050	65.32	59.98	1440x1080
SXGA 60Hz	1280x1024	63.98	60.00	1350x1080
WSXGA+ 60Hz	1680x1050	65.22	60.00	1728x1080
WUXGA 60Hz	1920x1200	74.04	59.95	1728x1080

HDMI-3D

信号モード	解像度(H x V)	水平方向の周波数 (kHz)	垂直方向の周波数 (Hz)	通常モード (H x V)*1
フレームパッキング 720p50	-	75.00	50.00	1920x1080
フレームパッキング 720p59	-	89.91	59.94	1920x1080
フレームパッキング 720p60	-	90.00	60.00	1920x1080
フレームパッキング 1080p23	-	53.95	23.98	1920x1080
フレームパッキング 1080p24	-	54.00	24.00	1920x1080
サイドバイサイド 1080p50(ハーフ)	-	56.25	50.00	1920x1080
サイドバイサイド 1080p59(ハーフ)	-	67.43	59.94	1920x1080
サイドバイサイド 1080p60(ハーフ)	-	67.50	60.00	1920x1080
サイドバイサイド 1080i50(ハーフ)	-	28.13	50.00	1920x1080
サイドバイサイド 1080i60(ハーフ)	-	33.75	60.00	1920x1080
サイドバイサイド 1080i59(ハーフ)	-	33.72	59.94	1920x1080
トップアンドボトム1080p24	-	27.00	24.00	1920x1080
トップアンドボトム1080p23	-	26.97	23.98	1920x1080
トップアンドボトム 720p50	-	37.50	50.00	1920x1080
トップアンドボトム 720p60	-	45.00	60.00	1920x1080
トップアンドボトム 720p59	-	44.96	59.94	1920x1080

ビデオ / S-ビデオ

信号モード	解像度(H x V)	水平方向の周波数 (kHz)	垂直方向の周波数 (Hz)	通常モード (H x V)*1
NTSC(3.58/4.43)	712x483	15.73	59.94	1440x1080
PAL/PAL-N	702x575	15.63	50.00	1440x1080
PAL-M	712x483	15.73	59.94	1440x1080
SECAM	702x575	15.63	50.00	1440x1080

コンポーネント

信号モード	解像度(H x V)	水平方向の周波数 (kHz)	垂直方向の周波数 (Hz)	通常モード (H x V)*1
480i 60.00Hz	-	15.75	60.00	1440x1080
480i 59.94Hz	-	15.73	59.94	1440x1080
576i 50.00Hz	-	15.63	50.00	1440x1080
480p 60.00Hz	-	31.50	60.00	1440x1080
480p 59.94Hz	-	31.47	59.94	1440x1080
576p 50.00Hz	-	31.25	50.00	1440x1080
720p 60.00Hz	-	45.00	60.00	1920x1080
720p 59.94Hz	-	44.96	59.94	1920x1080
720p 50.00Hz	-	37.50	50.00	1920x1080
1080i 60.00Hz	-	33.75	60.00	1920x1080
1080i 59.94Hz	-	33.72	59.94	1920x1080
1080i 50.00Hz	-	28.13	50.00	1920x1080
1080p 60.00Hz	-	67.50	60.00	1920x1080
1080p 59.94Hz	-	67.43	59.94	1920x1080
1080p 50.00Hz	-	56.25	50.00	1920x1080

PC 信号

信号モード	解像度(H x V)	水平方向の周波数 (kHz)	垂直方向の周波数 (Hz)	通常モード (H x V)*1
VGA 60	640x480	31.50	60.00	1440x1080
VGA 72	640x480	37.90	72.00	1440x1080
VGA 75	640x480	37.50	75.00	1440x1080
VGA 85	640x480	43.30	85.00	1440x1080
SVGA 56	800x600	35.20	56.00	1440x1080
SVGA 60	800x600	37.90	60.00	1440x1080
SVGA 72	800x600	48.10	72.00	1440x1080
SVGA 75	800x600	46.90	75.00	1440x1080
SVGA 85	800x600	53.70	85.00	1440x1080
XGA 60	1024x768	48.40	60.00	1440x1080
XGA 70	1024x768	56.50	70.00	1440x1080
XGA 75	1024x768	60.02	75.03	1440x1080
XGA 85	1024x768	68.70	85.00	1440x1080
WXGA 60	1280x768	47.76	60.00	1800x1080
WXGA+ 60	1440x900	55.92	60.00	1728x1080
SXGA 60	1280x1024	63.98	60.02	1440x1080
SXGA+ 60	1400x1050	64.74	59.95	1350x1080
WSXGA+ 60	1680x1050	65.22	60.00	1728x1080
1920x1080@60	1920x1080	67.50	60.00	1920x1080
MAC13"	640x480	35.00	66.67	1440x1080
MAC16"	832x624	49.11	75.09	1440x1080
MAC19"	1024x768	60.24	74.93	1440x1080

*1：スクリーンメニューの画角が「スタンダード」に設定されている場合の表示サイズを示します。

- 本プロジェクターと組み合わせて使用できないコンピューターがあります。
- 本プロジェクターの解像度は最高で 1920 x 1080 ドットです。1920 x 1080 よりも高い解像度の画像は正しく映すことができないことがあります。
- お使いのコンピュータの解像度と周波数が表にない場合には、コンピュータの解像度を変えて、対応する解像度と周波数を使用してください。
- 本プロジェクターでは、コンピュータ入力で 5 線のフォーマット（R、G、B、H、V）のみに対応しています。4 線のフォーマット（R、G、B、Composite Sync（複合同期信号））には対応していません。

保証とアフターサービス

■保証書（別添付）

● 保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間
お買上げ日から 1 年間です 但し、ランプは 1 年以内で 500 時間まで

● **光源ランプを交換されるときは**
光源ランプは専用の VLT-HC9000LP をご使用ください。他のランプを使用された場合、製品の保証を受けられないことがあります。

■補修用性能部品の最低保有期間

● 当社は、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打切り後最低 8 年間保有しています。
● 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
● 光源ランプなどの消耗部品の他に、液晶パネル、偏光板、PBS（光偏光素子）、カラーホイールなどの光学部品及び冷却ファンは寿命部品で、定期的な交換が必要です。長時間（毎日 6 時間以上）ご使用されると、1 年未満であっても修理・交換が必要になる場合があります。また、たばこの煙やほこりの多い場所でご使用になると、定期的な交換サイクルを早める場合があります。詳しくは、お近くの「三菱電機修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

● お買上げの販売店かお近くの「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。

■修理を依頼されるときは

◎「故障かなと思ったら」の手順にしたがって、お調べください。
● なお、不具合があるときは、電源を切ったあと、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

◎ **保証期間中は**
修理に際しましては、保証書をご提示ください。
保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。

◎ **保証期間が過ぎているときは**
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

◎ **修理料金は**
技術料＋部品代（＋出張料）などで構成されています。

◎ **ご連絡いただきたい内容**

1.	品　　名	三菱ホームシアタープロジェクター
2.	形　　名	LVP-HC9000D LVP-HC9000DW
3.	お買上げ日	年　月　日
4.	故障の状況（できるだけ具体的に）	
5.	ご 住 所（付近の目印なども）	
6.	お名前・電話番号・訪問希望日	

ご相談窓口・修理窓口のご案内（家電品）

取扱い・修理のご相談は、まず
お買上げの販売店へ

●お買上げの販売店にご依頼できない場合（転居や贈答品など）は、**各窓口** へお問い合わせください。

■お問合せ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて
三菱電機株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。
1.お問合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質・サービス品質の改善・製品情報のお知らせに利用します。
2.上記利用目的のために、お問合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3.あらかじめお客様からご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
①上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
②法令等の定める規定に基づく場合。
4.個人情報に関するご相談は、お問合せをいただきました窓口にご連絡ください。

ご相談窓口　家電品の購入相談・取扱い方法　受付時間365日24時間

●三菱電機お客さま相談センター



いつもサンキュー　365日
0120-139-365（無料）

携帯電話・PHS・IP電話の場合	
三菱電機お客さま相談センター 〒154-0001 東京都世田谷区池尻 3-10-3 FAX (03) 3413-4049（有料）	(03) 3414-9655 （有料）

■ご相談対応　平　　日　9：00～19：00
土・日・祝・弊社休日　9：00～17：00
上記以外の時間は受付のみ可能です。

修理窓口　家電品の修理の問合せ・修理の依頼　受付時間365日24時間

●三菱電機修理受付センター



0120-56-8634（無料）



www.melsc.co.jp

携帯電話・PHS・IP電話の場合		
北海道・東北 関東甲信越	東日本 修理受付センター FAX (03) 3424-1115（有料）	(03) 3424-1111 （有料）
東海・北陸・関西 中国・四国・九州	西日本 修理受付センター FAX (06) 6454-3900（有料）	(06) 6454-3901 （有料）

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。

K10A

● ご購入店などをメモしておきますとあとで役にたちます。

購入年月日

購入店名（住所）

電話番号

このホームシアタープロジェクターの形名はLVP-HC9000D、LVP-HC9000DWです。

愛情点検 ● 長年ご使用の場合は点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。



このような症状はありませんか	● 電源コード、電源プラグが異常に熱い。 ● コゲくさい臭いがする。 ● 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。 ● 電源スイッチを入れても映像がでない。 ● 映像が乱れたり、画面が異常にかけたりする。 ● その他の異常・故障がある。



ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

ホームシアタープロジェクターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。



PRINTED IN CHINA



三菱電機株式会社
京都製作所　〒617－8550 京都府長岡京市馬場図所1番地